

# 日本消防



- 平成24年度 日本消防協会事業計画について
- 災害活動報告・活動事例報告掲載

- 絵 平成23年度消防功労者表彰式 H24.3.8日(木) 於 ニッショーホール  
平成23年度消防庁消防団等表彰式(意見発表会表彰式)  
H24.2.20(月) 於 ニッショーホール  
ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」好評放送中! (財)日本消防協会

巻頭言「災害は忘れないうちにやって来る。」

..... 公益財団法人 山口県消防協会 会長 植田 喜好 .....	1
平成24年度(財)日本消防協会事業計画について .....	3
災害活動報告「平成23年台風12号に伴う消防団活動について」 ..... 和歌山県新宮市消防団 団長 栗栖 昭一 .....	7
活動事例報告「安全で安心な地域社会を目指して」-災害対応図上訓練の実施- ..... 松阪市消防団 団長 田所 照朗 .....	10
ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」出演者紹介 .....	財団法人 日本消防協会 ..... 13
平成23年度消防功労者消防庁長官表彰 .....	総務省 消防庁 ..... 17
特別表彰「まとい」を受章して「悠久の歴史浪漫あふれる郷土『吉野ヶ里』を守るために」 ..... 吉野ヶ里町消防団 団長 中牟田 満 .....	34
東西南北(新潟県)「治にいて乱を忘れず」 .....	新発田市消防団 団長 平野 眞市 ..... 36
シンフォニー(奈良県)「行動できる消防団員でありたい」 ..... 大和高田市女性消防団 副分団長 柘田 あきみ .....	38
住宅用火災警報器の設置徹底及び適切な維持管理の周知について .....	総務省 消防庁 予防課 ..... 40
平成24年度 消防互助年金海外視察 参加者募集 「オーストラリア世界遺産をめぐる旅」～森・海・都市の世界遺産に触れる～ .....	41
頑張れ!少年消防クラブ(東京都)「命を守る着衣泳」を体験 ..... 北多摩西部消防少年団 防災安全係 熊谷 栄輝 .....	43
うちの名物団員 .....	44
消防団の広場(鹿児島県)「地域防災の中核としての消防団を目指して」 ..... 奄美市消防団 団長 安田 廣 .....	46

5月の日本消防協会関係行事  
編集後記

## 表紙写真説明

「新発田城」～日本百名城の一つ～

「新発田城」は、別名「あやめ城」とも呼ばれており、本丸表門、旧二の丸隅櫓が国の重要文化財に指定されています。平成16年に三階櫓と辰巳櫓が復元され、平成18年には「日本100名城」の認定を受けました。

春には桜の花見、夏はお堀の蓮、秋には紅葉、冬は一面の冬景色と、四季折々にその姿を変え、訪れる人を魅了してやまない。そんな新発田城は、歴史と文化が香る城下町しばたのシンボルとなっています。  
(新潟県新発田市)

# 平成23年度消防功勞者表彰式

平成24年3月8日（木） 於 ニッショーホール



# 平成23年度消防庁消防団等表彰式(意見発表会表彰式)

平成24年2月20日（月） 於 ニッショーホール



ラジオ番組  
「おはよう！ニッポン全国消防団」  
好評放送中！  
(財)日本消防協会



12月放送分に出演のマリ・クリスティーヌさん



1月放送分に出演の三浦雄一郎さん



2月放送分に出演の金子絵里さん



3月放送分に出演の水前寺清子さん

# 「災害は忘れないうちにやって来る。」

公益財団法人 山口県消防協会 会長 植田 喜好



昨年3月11日に発生した「東日本大震災」において、多くの消防職団員が犠牲になりましたことに対しまして、改めて心からご冥福をお祈り申し上げます。

この震災復興の過渡期にあっても、我々消防団員は、今後その発生が懸念されている東海地震や東南海地震、南海地震、これら3つの地震が連動して発生する三連動地震、また、首都直下地震など、巨大地震への備えに万全を期さなければなりません。

さらに、地球温暖化などの影響から、今日では日常的に発生する長雨や集中豪雨への対応など、住民の消防団に対する期待はますます高まっています。

さて、山口県は、本州の最西端に位置し、三方が日本海と瀬戸内海に面し、また、関門海峡を挟んで九州と対峙していることから、古くから交通の要衝として栄えるとともに、山々は、その懐に我が国最大のカルスト台地と鍾乳洞を持つ「秋吉台国定公園」などの景勝地を有しています。

歴史的に山口県は、源平最後の戦いの地「壇ノ浦」や、今年、宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘から400年を迎えた「巖流島」を有し、幕末期の山口県（長州藩）は、吉田松陰や高杉晋作などの優秀な人材を多く輩出し、明治維新をリードしたことでも知られています。

文化的には、室町時代の「西の京都」といわれる山口市に、華やかな大内文化が開花し、

キリスト教の宣教師フランシスコ・ザビエルは、日本初の教会を山口市に建設し、そこで行われたミサが、日本のクリスマスの始まりといわれています。

また、産業面では、岩国から下関に至る瀬戸内海沿岸に、石油、化学、鉄鋼、自動車等の工場が立地し、我が国有数の工業地帯が形成されています。

山口県消防協会は、関東大震災のあった大正12年に山口県消防義会として発足以来、昭和11年に財団法人となった後、戦後の昭和22年に財団法人山口県消防協会に改称し、これまで90年近い歴史を有していますが、本年4月1日からの公益財団法人への移行を契機に、山口県の消防防災の発展により一層寄与したいと考えています。

当協会の会員は、県下の全ての消防職団員約15,500人で、そのうち消防団は19市町13,595人ですが、女性団員は16市町に391人と年々増加はしているものの、国の方針である10%（消防団員数に占める女性団員の割合）には道半ばとなっています。

全国的な消防団員のサラリーマン化問題について、山口県の対応策としては、県の政策課題に寄与する取組をしている県内事業者が、県が実施する業務委託契約（建設工事を除く）の指名競争入札に参加する場合、その取組を評価して追加して指名することにより、入札参加機会の拡大を行う「別枠指名制

度」を創設し、消防団協力事業所の認定を評価項目とする優遇措置を設けており、事業所の従業員が消防団に入団しやすい、また、消防団員となった従業員が消防団活動をしやすい環境づくりを積極的に推進しています。

この消防団協力事業所表示制度は、現在、14市町で導入され、110事業所が認定（うち消防庁認定23事業所）されています。

次に、消防団員の確保については、山口県も消防団員数が減少傾向にあり、その対策に苦慮しているところですが、珍しい試みとして下関市では、消防団のPR活動「モセキ消防団PRキャンペーン」を民間委託し、官民一体となったキャンペーンを展開しています。モセキとは、若者の「下関市」に対する俗称であり、若年層の啓発に力を注いでいます。

また、美祿市では、高齢化などで基本団員の確保が難しい消防団や自主防災組織からの移行により、県内初の機能別部隊（通称：サポート部隊）を3部隊発足させ、災害時の見回りや高齢者の援助等で活躍しています。

さらに、消防団員に対する研修や訓練の充実にも重点的に取り組んでおり、平成23年2月には、下関市で開催した「新時代に対応した消防団運営方策の普及に係る講座」（日本消防協会出前講座）には、在日米海軍司令部地域統合消防隊予防課長の長谷川祐子氏を講師に招聘して、「米国発 消防団のための地域防火、防災指導クラス」をテーマに、地域を守る消防団員として何ができ、いつどのような役割で活動するのかということについての講演をいただき、消防団幹部や女性消防団員など100余名が熱心に聴講しました。

訓練関係では、山口県や山口県消防クラブ連合会と共催で毎年開催している山口県消防操法大会は、今年で59回（女性の部は30回）を迎えますが、ポンプ車や小型ポンプ、軽可搬ポンプといった基本操法に加えて、特色あ

る操法として、消防団員を対象とした山口県オリジナルの応急操法と婦人防火クラブ員を対象とした水バケツ消火競技を実施しています。

中でも応急操法は、基本操法同様にポンプ車の部と小型ポンプの部があり、操法開始の申告までは基本操法に準じていますが、操作開始からは、安全かつ確実に、決められたコース内を如何に早くホース延長し標的を落とすか、また、如何に早く撤収するかのタイムを競うもので、とてもスリリングな競技であるとともに若手団員の士気向上に一役買っています。

また、こうした消防操法の指導者や審査員を養成することを目的に、一昨年からは、県内市町の会場を持ち回りで、消防職団員を対象とした消防操法指導者講習会を開催しており、県内外から消防操法に精通した講師を招聘し、実技を交えて基本操法の実施要領及び審査要領の講習を行っています。

以上、山口県内の消防団に関する取組みを中心に紹介させていただきましたが、今回の震災のような大規模災害時の初動対応は、数的に見ても常備消防だけでは困難なことは明らかであり、マンパワーを有する我々消防団は、欠かすことのできない存在です。

しかも消防団は、災害時の初動対応のみならず、地域に根差した組織であることから、避難所運営や行方不明者の搜索など、地域コミュニティの中心として多岐な活動に、しかも長時間にわたって従事することを地域住民から期待されています。

今回の大震災を教訓として、住民の避難誘導のあり方や消防団員の安全確保対策など、消防団が取り組まなければならない課題は山積しており、「災害は、忘れないうちにやって来る。」ということを肝に銘じながら、今後、協会としても、地域住民への啓発活動を含めて、消防団活動の安全でより良い環境づくりへの支援に積極的に取り組む所存です。

# 平成24年度（財）日本消防協会事業計画 について

## 1 会 議

次の会議を開催し、会務の発展を図る。

- (1) 正・副会長会議 [平成24年5月、平成25年2月、その他随時]
- (2) 理事会 [平成24年5月、平成25年2月、その他随時]
- (3) 代議員会 [平成24年5月、平成25年2月]
- (4) 都道府県消防協会事務局長会議 [平成25年2月]
- (5) 福祉共済事業等運営委員会 [平成24年5月、平成25年2月、その他随時]
- (6) 地震等防災対策委員会 [随時]
- (7) 女性消防団員確保対策委員会 [随時]
- (8) 全国消防操法大会運営委員会 [平成24年4月]
- (9) 消防団120年(自治体消防65周年)記念事業実行委員会 [平成24年5月、その他随時]

## 2 全国消防大会（優良消防団表彰等）

以下の事業を一体として実施 [平成25年2月]

- (1) 優良消防団（員）等表彰
  - ① 定例表彰  
表彰規程等に基づき消防活動等に功績のあった団体及び個人を表彰する。
  - ② 特別表彰 [随時]  
現場功労のあった団体・個人及び消防業務に特別に功労のあった者を表彰する。
- (2) 講演会  
消防防災に関する講演を実施する。

## 3 全国消防殉職者慰霊祭

消防殉職者（消防団員・消防職員・一般協力者）の慰霊祭を日本消防会館において実施する。[平成24年9月]

## 4 大規模災害活動に対する支援

- (1) 災害対策支援金の交付 [随時]  
大規模な災害の発生に際し、災害活動の情報収集にあたり、被災地の消防団へ災害対策支援金を交付する。
- (2) 非常用食料等の交付 [随時]  
大規模な災害の発生に際し、必要に応じ非常用食料等を交付する。

## 5 消防団多機能型車両の交付事業

災害時の救助活動などにも使用できるよう、小型動力ポンプ、救助資機材等を搭載した多機能型車両の交付を平成24年度も実施する。

## 6 消防団員等技術向上対策

- (1) 全国の消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図ることを目的に、全国消防操法大会を実施する。[平成24年10月7日]
- (2) 都道府県ごとに開催される消防操法大会に援助金を交付するとともに、表彰旗を更新（平成24、25年度）する。
- (3) 都道府県消防協会と連携し、消防団員指導員の養成を行う研修を実施する。
- (4) 新時代に即した消防団の具体的な運営方策に関する研修を実施する。

## 7 消防団員等確保事業

- (1) 消防団員等の士気高揚を図り、団員等の確保に資するため、全国的に著名な人々の協力を得て消防広報、消防団員の激励等を推進する。
- (2) 女性消防団員10万人の確保を目標として普及広報及び啓発活動を積極的に推進する。
  - ① 全国女性消防団員活性化秋田大会を開催する。[平成24年11月16日]
  - ② 女性消防団リーダー会議を実施する。
  - ③ 新規に入団した女性消防団員に対して制服を交付する。
  - ④ 確保啓発活動を推進する。[随時]

## 8 消防団幹部特別研修

消防団の上級幹部団員を各都道府県より1名選抜し、指導者養成のための特別研修を実施する。[平成25年1月]

## 9 消防団幹部候補中央特別研修

消防団員を各都道府県より選抜し、幹部候補の育成を図るための研修を男女別に実施する。[平成25年2月]

## 10 少年消防クラブ活性化事業

関係機関と連携し、モデル少年消防クラブの支援等により少年消防クラブ活動の活性化を推進する。[通年]

## 11 地震等防災対策

- (1) 東日本大震災後の我が国消防のさらなる充実強化を推進する。
- (2) 現地調査を含め、地震等の災害対策のあり方につき調査、検討を行う。

## 12 消防団120年（自治体消防65周年）記念事業

平成25年度を中心とする消防団120年（自治体消防65周年）記念事業の検討、準備を行うとともに、記念事業に関連するスローガン、ロゴマークの開発、記念グッズの制作等

及び広報を実施する。

### 13 消防広報

消防団に関する情報提供を積極的に行うため、広報の充実を図る。

- (1) 機関誌「日本消防」の発行 [通年]
- (2) ホームページの充実を図り、日本消防協会の事業等について広報に努めるとともに、消防団員確保等全国の消防団の活動状況に係る情報を提供し、消防団相互の情報交流を積極的に推進する。[通年]
- (3) 消防団活動を広報し、消防団員の確保等に資するため、消防応援団員、消防団員等の出演によるラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」（全国30局ネットによる毎週放送）を実施する。[毎週]

### 14 日中韓消防交流事業

中国及び韓国の消防関係者との交流を深めるため、次の事業等を実施する。

- (1) 日中消防協会定期協議会（北京） [平成24年6月19日]
- (2) 第27回日中友好消防視察団 [平成24年6月18日～25日]
- (3) 中国消防協会研修生の受け入れ [平成24年12月]
- (4) 日中韓消防協会会議（東京） [平成24年11月13日]

### 15 消防車両リサイクル事業

開発途上国に日本の中古消防車両を援助する。[通年]

### 16 消防国際交流事業

海外消防事情調査をするほか、海外の消防機関との情報交流等を実施し、消防の国際化を推進する。

(アメリカ) [平成24年10月9日～17日]

### 17 日本消防会館の運営

日本消防会館の運営管理を行うとともに、消防団情報プラザ等を活用し、消防団に関する情報発信の充実を図る。[通年]

### 18 共済事業の継続実施に向けての対応

当協会が実施する3共済事業について、保険業法等の一部を改正する法律に基づく認可を得るために必要な措置を講じる。

### 19 福祉共済事業の充実

- (1) 消防団員の福祉共済制度への全員加入を推進するとともに、適正な事業推進を図る。[通年]
- (2) 東日本大震災に係る弔慰金の支払いに充てた支払準備金を積み戻すため、平成24年度に限り掛金を4,000円／年とする。

- (3) 消防団員等の健康増進及び公務災害の防止を図るため、都道府県消防協会が行う健康器具の購入等を助成する。
- (4) 福祉共済制度等の情報を提供するため、「いきいき消防」の発刊を行う。〔年4回〕
- (5) 福祉共済事業への加入推進と制度の維持発展を図るため、消防資器材（車両）等を交付する。〔通年〕

## 20 福祉対策事業

- (1) 都道府県消防協会が行う消防殉職者慰霊祭等の実施に対し補助金を交付する。〔随時〕
- (2) 福祉共済制度に加入している殉職会員に対し、弔慰救済金を贈与する。〔随時〕

## 21 消防互助年金事業

消防団員の福祉の増進を目的とした消防互助年金事業を円滑に推進するとともに、加入促進のため保険料の払込み方法など、制度の見直しの検討を行う。〔通年〕

## 22 防火防災訓練災害補償等共済事業

市区町村及び組合が防火防災訓練の際における事故について損害賠償又は災害補償を行う場合に、その負担をてん補することを目的とした防火防災訓練災害補償等共済事業を円滑に推進する。〔通年〕

## 23 婦人消防隊員等福祉共済事業

婦人消防隊員等の福祉の増進を図るため、婦人消防隊員等福祉共済事業を円滑に推進する。〔通年〕

## 24 消防関係団体に対する事業協力

- (1) 財団法人育英会の東日本大震災消防殉職者遺児育英奨学基金等に協力する。
- (2) 全日本消防人共済会に対する事業協力
- (3) 全国消防殉職者遺族会に対する協力

## 25 その他

公益法人改革に伴う新法人への移行の準備を進めるとともに、厳しい財政環境を踏まえ、引き続き事務事業の見直し、経費の削減合理化を図る一方、財源確保に努める。

※ 平成22年度まで自治総合センターの助成を受けて実施していた防災用資機材等の配備（女性消防隊、モデル少年消防クラブ関係）事業は、平成23年度から自治総合センターがコミュニティ助成事業として直接実施することとされた。日本消防協会としては、その円滑な実施に協力することとする。

# 「平成23年台風12号に伴う 消防団活動について」

和歌山県新宮市消防団 団長 栗栖 昭一



### 1 はじめに

平成23年台風第12号による未曾有の豪雨災害では、当市におきましても死者13名、未だ行方不明者1名の犠牲者が発生するなど甚大な被害を受けました。この豪雨災害で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました多くの皆様にお見舞い申し上げます。

また、全国の皆様より多大なご支援ご協力をいただき、あらためて『絆』という意味を肌で感じました。この場をお借りいたしまして衷心よりお礼申し上げます。



河川氾濫による被害

### 2 新宮市の紹介

新宮市は、和歌山県、奈良県及び三重県の県境が接する紀伊半島の東南部に位置し、熊野参詣の三大大社のひとつ熊野速玉大社の門前町として、さらには温暖で高湿多雨な気候風土により熊野材の生産地として木材関連業で繁栄した歴史を持ち、熊野地方の中心都市として発展してきました。

また、平成17年10月には旧熊野川町との市町合併に伴い、川の参詣道として世界遺産に登録された「熊野川」沿いに内陸の山間地までの総面積255.13km<sup>2</sup>の広さを持つ市域で、人口3万2千人の地方都市となりました。

### 3 消防団の紹介

新宮市消防団は、旧新宮市では条例定数252名の1本部7分団で組織されていましたが、平成17年の市町合併に伴い、現在では条例定数372名の1本部11分団で組織されています。



木ノ川地区土砂崩れ救助活動

普通ポンプ自動車 8 台、小型動力ポンプ付水槽車 1 台、小型動力ポンプ積載車 5 台、小型動力ポンプ 8 台、計 22 台の消防車両等により活動を行っています。

当市消防団には「警備分団」という消防ポンプ車や小型ポンプを持たない分団があり、災害現場での消防警戒区域の設定、消防隊の誘導や交通整理などにあたっています。また、団員の居住スペースを併設した消防分団詰所が設置されており、災害発生時の初動体制の確保や消防ポンプ自動車などの資機材点検を円滑に行うとともに周辺住民との防災コミュニティーの形成にも役立っています。

#### 4 台風12号による被害概要について

当市においては、9月4日に消防本部観測値で最大時間雨量115ミリ（4時～5時）を記録し、また熊野川の上流にあたる北山川水系、十津川水系にあるダムからの放流と長く降り続く雨により、熊野川は氾濫水位をはるかに超え、熊野川地区では多数の家屋が水没し、流出した家屋まで発生しました。さらに熊野川河口流域である市街地では、熊野川に面した堤防からの越水や旧熊野大橋をも超える濁流により、市街地の中心道路の国道42号線においても冠水し、泥水が住宅街を川のように流れ、床上浸水が多数発生しました。



旧熊野大橋の状況①（9/4 7時）

また、熊野川沿いの生活基盤道路である国道168号線は、至る所で土砂崩れや道路掘削が発生、交通が遮断され、高田地区、熊野川地区は完全孤立状態となりました。さらに交通網のみならず通信、電気、ガス、水道といったライフライン全ての機能がマヒし、まさに壊滅的な状況でした。

#### 5 消防団の活動について

私が住むこの新宮市は、消防団活動<sup>イコール</sup>＝水防活動といっても過言でないほど、毎年のように台風や大雨により、河川の水位警戒監視や巡視活動を行っています。当時も新宮地区では、熊野川や市街地を流れる市田川の水位警戒のため樋門操作や巡視活動をしていました。

また高田地区や熊野川地区では、高田川や熊野川が氾濫する前に早めの避難をするよう住民に戸戸呼び掛けていました。万全の体制で警戒しており、また過信をしていたわけではありませんが、9月3日までは時間雨量が多くても20ミリ程度とそれほど多くはなく、長い消防団員としての経験則上、新宮市にはさほど影響はなく、何の被害なく過ぎていくものと誰もがそう思っていました。

しかし異変は起こりました。8月30日から降り続く長雨は、年間降水量が4,800ミリと最も多い地域である奈良県大台ヶ原山



旧熊野大橋の状況②（9/4 7時）



9月4日被災時の三和大橋付近の状況



平常時に戻った三和大橋付近の状況

系において降り出しからの累計雨量が約2,000ミリと想像をはるかに超えるものとなり、その雨水が熊野川水系へと流れ込み一気に増水。さらに追い打ちをかけるように9月3日夜半から9月4日未明の集中的な豪雨により、市街地のいたるところで家屋が浸水し、住民からの救助要請が相次ぎました。

通信網が途絶え、情報が入らない状況でしたが、和歌山県防災航空隊からの情報などで被害の全容が少しずつわかるにつれ、これまでに経験したことのないくらいに変貌した我が街の様子を目の当たりにし、言葉に詰まる思いでした。家屋倒壊や浸水、土砂の流出など多数の災害現場がありましたが、最終的に土砂崩れによる現場が2箇所、河川への転落による現場が1箇所、増水河川による家屋流出に伴う現場が1箇所の計4箇所の救助活動となりました。333名の消防団の指揮官として『まず行方不明

者の救助に全力を!!』と檄を飛ばし、和歌山県下消防本部応援隊、警察や自衛隊と共に救助活動に総力を挙げ取り組みました。

その救助現場の中には、地域住民の避難誘導中に土砂にのまれた団員、また道路崩落現場での活動中に増水し荒れ狂う河川へ転落した団員がいました。

残念ながら新宮市消防団から2名の殉職者を出してしまったことは痛惜このうえなく、また、ご遺族の悲しみを思うと言葉がありません。消防人として崇高な使命感のもと、自らの危険も顧みず、住民の安全、安心のため懸命に活動し『自分たちの街は、自分たちが守る』という消防団の原点ともいえるこの言葉を実践し、殉職した我々の仲間2名を誇りに思います。

## 6 最後に

台風12号による豪雨災害により多くの犠牲者がでてしまいました。また新宮市が急傾斜地として指定している地区以外の、まさかこんなところが!という箇所でも土砂崩れは発生しました。いわゆる「深層崩壊」というこれまでにあまり聞き慣れない土砂崩れに、改めて災害は想定はできないということを実感しました。

『災害は常に想定外』ということを教訓とし、このことを決して風化させず後世に語り継いでいくというのも、団長としての私の使命だと考えています。

また消防人として地域住民の手本となり、地域住民自らが『自分たちの街は、自分たちが守る』という高い防災意識をさらに持つことができるよう、地域防災体制の強化に全力で取り組む所存であります。

復興にはまだまだ時間が必要ですが、以前の新宮市以上の新宮市となるよう、消防団としても側面からではありますが尽力いたします。

## 活動事例報告

# 「安全で安心な地域社会を目指して」 —災害対応図上訓練の実施—

松阪市消防団 団長 田所 照朗



### ●はじめに

東日本大震災が発生して1年、亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災地で今なお奮起しておられる皆様の一日も早い復興を願っております。さて消防団員が全国的にも減少している中、松阪市消防団では、平成17年の合併時は101名の欠員が生じておりましたが、団員確保の様々な取り組みの結果、平成19年9月には1,420名の定員を確保することができ、平成20年3月には、日本消防協会特別表彰「まとい」を拝受いたしました。これを励みに、大規模災害に強い消防団を作るため、他の関係機関と連携強化を図るとともに、図上訓練等を取り入れるなど、地域にあった災害対応ができるよう日々研鑽に励んでおります。

今後とも消防団員相互の融和と結束を図り一丸となって「安全で安心な地域社会の実現を目指して」活動していく覚悟であります。

### ●松阪市の紹介

松阪市は、天正16（1588）年、戦国武将蒲生氏郷公が築城した平山城が現在の松坂城の始まりです。蒲生氏郷は城下町の建設も積極的に進め、町の中央に近江日野の商人を、湊町に伊勢大湊の豪商角屋氏を呼び寄せました。

そして、海岸近くを通っていた参宮街道を城下に引き寄せ、商業の自由を保証し、

後の「商都松阪」の基礎を築きました。こうして松阪の地は城下町として、そして伊勢神宮へ参拝する旅人の休息の場として賑わいました。松坂城は現在、石垣のみが残っており城跡公園として春には桜や藤が咲き、秋には銀杏が色鮮やかに黄葉し、現在も地元住民から憩いの場として愛され続けています。また平成23（2011）年2月7日には国史跡に指定されました。

### ●松阪市消防団の概要

松阪市消防団は、平成17年1月1日、松阪市・嬉野町・三雲町・飯南町・飯高町の



松阪市マスコットキャラクター  
ちやちやも

1市4町の合併により、条例定数1,420人を有する新たな組織として発足しました。

現在、管轄する総面積は、623.82km<sup>2</sup>で、管内約17万人の市民の安全・安心の確保のため、全員一丸となって消防団活動を行っております。

組織は、大きく5つの方面団（松阪、嬉野、三雲、飯南、飯高）に分かれ、その中に分団として49分団が構成されています。

管轄する区域の特徴として、西は奈良県境まで、東は伊勢湾までの東西に長い管轄区域を有しており、山間部や沿岸部等、各地域の気候条件や地形が異なることから、地域における災害に対応した様々な消防活動が求められている現状です。

### ●災害対応の図上訓練

「大規模地震等にかかる松阪市消防団の非常体制の基本要綱」に基づき、平成22年12月に大規模地震発生時における対応能力の向上、及び関係機関等との連携強化などを目的として、消防団幹部を対象に、災害対応図上訓練を実施しました。

#### 1) 訓練実施のきっかけについて

近年、消防団の活動は多岐に渡りますが、特に地震等の大規模災害時における消防団の活動は、住民から大きな期待がされているところであります。

このことから、大規模災害時に生じる



出初式

各地域の事案や被害状況等を予測し、これに迅速に対応できる能力を身に付け、また、各地域の災害の特徴等を検証し、災害に対し十分に備えるための、図上訓練を実施することといたしました。

#### 2) 訓練の概要

震度6強の地震の発生を想定し、団長、団幹部21名、消防本部12名、事務局10名が参加し各方面団の本部をプレーヤーに、消防本部・団本部をコントローラとし、状況付与型の訓練を行いました。地震発生1時間後から3時間までを期間とし、道路の誘導等一定の状況をあらかじめ与えた上で、時々刻々と救助の要請等が状況付与され、これに対し各分団の状況を把握しながら、各隊への指示や本部への報告、応援要請等を行いました。各機関間の連絡は消防無線を使用しました。



### 3) 訓練を終えて、今後の課題と取り組みについて

訓練は約2時間緊迫した空気の中で実施し、その後、訓練の検証等も含めて検討会を開催しました。その中で団員からは次のような意見が出されました。

- ・改めて自分たちの地域について災害の特徴等を見直すことができた。
- ・山間部や沿岸部等、地域実状に応じて活動内容や資機材が違ってくることを確認した。
- ・地域の防災関係機関との連携の必要性を改めて再確認した。
- ・災害状況を十分に把握するため、通信手段の確保の重要性について再確認した。



中日新聞による掲載記事（12/14付）

その他、様々な意見が出されましたが、これらの意見を今後の消防団活動において取り入れるとともに、引き続き、図上訓練を実施していくことで、更なる地域防災力の強化を図っていく決意を新たにしました。

### ●おわりに

消防団を取り巻く環境が厳しくなっている中で、我々は時代に即した体制を考え、改善し、地域住民の安全・安心の確保のため、一層努力していかねばなりません。

そのためにも団員一人ひとりが「今、自分は何をするべきか。今、何ができるか」を常に考え、技術の向上はもちろん訓練を通して、団員相互の絆を深め、より強固な組織を構築していくことが必要であります。

最後になりましたが、全国の消防団員の皆様が日夜献身的な活動を続けておられますことに敬意を表しますとともに、地域の防災という同じ目的をもつ全国の消防団が更に連携を強化して、消防団活動の充実強化と活性化を進めていきたいと思っております。



# ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 出演者紹介

財団法人 日本消防協会



平成23年12月放送分に  
出演の消防応援団  
マリ・クリスティーヌさん

12月17日又は12月18日放送



愛知県知立市消防団 第1分団  
団員 荻谷 利明さん

この度は、番組に出演させて頂き有難うございました。  
今回の放送をきっかけに、団員の増員に繋がってほしいと願っております。

12月10日又は12月11日放送



福井県小浜消防団  
部長 山口 久範さん

有事の時はもとより、日々緊張感を持って生活したいと思います。今後もご指導よろしくお願いたします。日本のみなさん がんばりましょう。

12月24日又は12月25日放送



鹿児島県湧水町消防団女性部  
部長 岩崎 イツ子さん

電話インタビューということで、電話がかかってくるまではとても緊張しましたが、いざ始まると流暢な日本語のクリスティーヌさんと山本さんのスムーズな進行にいつの間にか緊張もほぐれ楽しく対談がすることができました。放送後、多くの電話をもらいました。「ラジオの声も良かったよ」と同級生、「湧水町の言葉が耳に飛び込んできて、ハッと聞きましてよ」etc...

これからも地域住民の期待に応えられるよう頑張っていきたいと思っております。  
ありがとうございました。

平成24年1月放送分  
出演の消防応援団  
三浦雄一郎さん



1月7日又は1月8日放送



横浜市西消防団 第2分団  
団員 片沼 顕修さん

私は、地元小学校の出前授業で、消防団員の活動写真を児童に紹介しながら、将来、消防団に入ってくれたらという思いで、いつもお話をしています。

そして、子供達一人ひとりが書いたお礼の感想文を読むと、僕もおじさんみたいになりたいと書いてあったので、消防団員になって本当に良かった！ 感動、胸がいっぱい、消防団大好きです。!!

こうして、プロスキーヤーで登山家の三浦雄一郎さんと消防団のお話が出来て、最高の気分です。消防団員の募集を仲間の皆で、がんばるぞ!!

1月14日又は1月15日放送



石川県七尾鹿島広域圏事務組合  
第2消防団鹿西分団  
団員 黒氏 毅志さん

今回、世界的に有名なプロスキーヤーであられる三浦雄一郎さんと対談する機会をいただきました。三浦さんの言葉の端々に感じる力強さに戸惑いながら、私も仕事や消防活動にもっと前向きになり人間的に少しでも近づけるよう頑張りたいと感じました。

1月28日又は1月29日放送



赤磐市消防団 女性部  
部長 藤原 和美さん

ラジオインタビュー！とっても楽しかったので、またお声がかかることを楽しみに消防団活動を頑張ります。ちっちゃな目標が見つかりました。

1月21日又は1月22日放送



埼玉県入間市消防団  
分団長 中村 善昭さん

ラジオ収録は何度か経験があったのでそれほどの緊張はありませんでした。

当団の広報担当として、消防団団員一人ひとりを「カッコいい存在」にするべくこれまでにない、路線を変えた様々な媒体を利用したPR活動を行っていきたいと思います。



平成24年2月放送分に  
出演の消防応援団  
金子絵里さん

2月4日又は2月5日放送



熊本県氷川町消防団  
副団長 古里 英二さん

「少々緊張しましたが、楽しい時間を過ごすことができました。これからも消防団員一丸となって、【安全・安心に暮らせるまち】目指して日々努力します。」

2月11日又は2月12日放送



千葉県柏市消防団  
副団長 木村 祐一さん

今回のラジオ出演では緊張していましたが、話しやすい話題を提供して頂いてから、緊張もほぐれて話すことが出来ました。

今後は、より一層救命サポート隊活動を頑張って行き、一人でも多くの市民の方に、講習を受けていただきたいと思います。

2月18日又は2月19日放送



奈良県香芝市消防団  
団員 井上 良美さん

金子絵里さんと山本アナウンサーとお話できて光栄でした。とても緊張しましたが、なんとか香芝市女性消防団のPRができて良かったです。今後は、市民の皆さまと一緒に災害に強い街づくりを目指していきたいと思います。

2月25日又は2月26日放送



静岡県静岡市消防団  
副分団長 杉本 達哉さん

毎日のように聞いている山本アナウンサーや、消防団手帳にのっている金子さんと対談できて、とても嬉しく、もう少し対談時間があればと思いました。

これからも消防団活動を熱く頑張っていきたいと思います。

おはよう！ニッポン全国消防団  
放送局・放送時間

H23年12月31日～H24年1月2日放送



東京消防庁  
次長 原 正之さん

3月24日又は3月25日放送



東京消防庁 警防部  
副参事 五十嵐 幸裕さん

放送局	放送曜日	放送時間
(株)ニッポン放送	日	6:15～6:25
(株)STVラジオ	日	5:50～6:00
青森放送(株)	日	7:20～7:30
(株)IBC岩手放送	日	6:15～6:25
東北放送(株)	土	5:00～5:10
(株)秋田放送	日	6:15～6:25
山形放送(株)	日	6:20～6:30
(株)ラジオ福島	土	5:40～5:50
(株)新潟放送	日	7:40～7:50
信越放送(株)	日	6:50～7:00
福井放送(株)	日	6:10～6:20
北陸放送(株)	日	7:30～7:40
北日本放送(株)	日	6:10～6:20
東海ラジオ放送(株)	日	6:00～6:10
大阪放送(株)	土	6:45～6:55
(株)和歌山放送	土	6:30～6:40
(株)山陰放送	日	8:15～8:25
(株)中国放送	日	5:30～5:40
山口放送(株)	土	6:45～6:55
四国放送(株)	土	6:40～6:50
西日本放送(株)	土	7:35～7:45
南海放送(株)	日	8:50～9:00
(株)高知放送	日	6:40～6:50
九州朝日放送(株)	日	6:15～6:25
(株)大分放送	日	6:45～6:55
長崎放送(株)	土	7:25～7:35
(株)熊本放送	土	5:30～5:40
(株)宮崎放送	日	6:20～6:30
(株)南日本放送	日	8:30～8:40
(株)ラジオ沖縄	日	6:35～6:45

# 平成23年度消防功労者消防庁長官表彰

総務省 消防庁

消防記念日（3月7日）にちなみ、3月8日（木）に「平成23年度消防功労者消防庁長官表彰式」が行われました。本表彰式において表彰する受章者は次のとおりです。

※誌面の都合上、下記のみ掲載になります。

永年勤続功労章を授与する消防団員(1,709名)				都道府県名	所 属	階 級	氏 名
都道府県名	所 属	階 級	氏 名				
北海道	西胆振消防組合豊浦消防団	団長	佐々木 功	北海道	上砂川町消防団	副団長	佐藤 章
〃	斜里地区消防組合清里消防団	団長	高橋 泰雄	〃	紋別地区消防組合雄武消防団	副団長	上林 友次
〃	渡島西部広域事務組合知内消防団	団長	中村 敏雄	〃	上砂川町消防団	副団長	菅井 英吉
〃	大雪消防組合東神楽消防団	団長	林 吉典	〃	留萌消防組合留萌消防団	副団長	野田 英夫
〃	岩内・寿都地方消防組合神恵内消防団	団長	本間 俊介	〃	室蘭市消防団	副団長	関 寛
〃	深川地区消防組合幌加内消防団	団長	水崎 清和	〃	日高西部消防組合平取消防団	副団長	高橋 一夫
〃	上川中部消防組合当麻消防団	副団長	宮崎 良司	〃	遠軽地区広域組合湧別町上湧別消防団	副団長	高橋 誠
〃	旭川市消防団	副団長	秋山 善徳	〃	石狩北部地区消防事務組合新篠津消防団	副団長	高田 代美
〃	函館市戸井消防団	副団長	安宅 善春	〃	函館市戸井消防団	副団長	高田 勝博
〃	北広島市消防団	副団長	突田 健三	〃	胆振東部消防組合越川消防団	副団長	辻 治
〃	夕張市消防団	副団長	阿部 広昭	〃	芦別市消防団	副団長	土山 一夫
〃	胆振東部消防組合安平消防団	副団長	井上 一雄	〃	岩内・寿都地方消防組合寿都消防団	副団長	岡田 信一
〃	稚内地区消防事務組合稚内消防団	副団長	上田 重三	〃	紋別地区消防組合流上消防団	副団長	中津 一夫
〃	増毛町消防団	副団長	内山 廣	〃	檜山広域行政組合せたな町瀬棚消防団	副団長	村松 正正
〃	西十勝消防組合屈足消防団	副団長	大田 孝	〃	上川中部消防組合鷹栖消防団	副団長	長谷 尚
〃	紋別地区消防組合西興部消防団	副団長	大西 弘	〃	釧路東部消防組合厚岸消防団	副団長	濱 義信
〃	東十勝消防事務組合浦幌消防団	副団長	小野木 忠	〃	池北三町行政事務組合陸別消防団	副団長	茂林 雄
〃	八雲町熊石消防団	副団長	桂川 幸	〃	上川中部消防組合比布消防団	副団長	本 敏
〃	北後志消防組合仁木消防団	副団長	金子 英治	〃	渡島西部広域事務組合福島消防団	副団長	松岡 悦隆
〃	根室北部消防事務組合羅臼消防団	副団長	鹿又 政義	〃	北留萌消防組合天塩町消防団	副団長	三浦 明
〃	釧路東部消防組合釧路消防団	副団長	山下 意一	〃	美瑛市消防団	副団長	三村 義典
〃	渡島西部広域事務組合木古内消防団	副団長	久 雄	〃	南空知消防組合南幌消防団	副団長	村上 昇
〃	北留萌消防組合羽幌消防団	副団長	い井 晃	〃	旭川市消防団	副団長	村田 秀幸
〃	苫小牧市消防団	副団長	斎藤 謙	〃	小樽市消防団	副団長	山田 雄
〃	羊蹄山ろく消防組合留寿都消防団	副団長	齋藤 好夫	〃	長万部町消防団	副団長	横手 雅廣
				〃	北後志消防組合赤井川消防団	副団長	吉川 幸

都道府県名	所属	階級	氏名
北海道	檜山広域行政組合乙部町消防団	分団長	阿部 修一
〃	北留萌消防組合初観消防団	分団長	有野 静雄
〃	札幌市北消防団	分団長	井形 信広
〃	日高東部消防組合浦河町消防団	分団長	池田 義武
〃	函館市恵山消防団	分団長	伊勢 若男
〃	札幌市西消防団	分団長	伊藤 雅信
〃	北見地区消防組合北見消防団	分団長	伊藤 静雄
〃	砂川地区広域消防組合砂川消防団	分団長	樋田 邦雄
〃	羊蹄山ろく消防組合蘭越消防団	分団長	岩間 勇裕
〃	上川中部消防組合上川消防団	分団長	大西 裕
〃	札幌市西消防団	分団長	尾崎 武
〃	釧路北部消防事務組合鶴居消防団	分団長	小野寺 正幸
〃	日高中部消防組合新冠消防団	分団長	小山田 孝義
〃	美幌・津別広域事務組合津別消防団	分団長	金谷 謙藏
〃	南十勝消防事務組合広尾町消防団	分団長	金子 勝弘
〃	千歳市消防団	分団長	上山 照美
〃	小樽市消防団	分団長	川口 達也
〃	南十勝消防事務組合広尾町消防団	分団長	川村 浩志
〃	池北三町行政事務組合足寄消防団	分団長	菊地 泰藏
〃	札幌市白石消防団	分団長	越野 泰藏
〃	江別市消防団	分団長	小林 道夫
〃	根室北部消防事務組合別海消防団	分団長	坂脇 堅一
〃	日高東部消防組合浦河町消防団	分団長	佐々木 恵一
〃	札幌市中央消防団	分団長	上西 武紀
〃	利尻礼文消防事務組合利尻町消防団	分団長	上新 秀一
〃	胆振東部消防組合穂別消防団	分団長	関谷 博

都道府県名	所属	階級	氏名
北海道	北十勝消防事務組合鹿追消防団	分団長	高井 泥一
〃	釧路北部消防事務組合標茶消防団	分団長	高橋 祐夫
〃	札幌市東消防団	分団長	竹田 信昭
〃	根室北部消防事務組合標津消防団	分団長	戸本 幸年
〃	上川北部消防事務組合中川消防団	分団長	芦井 宇一
〃	流川地区広域消防事務組合新十津川消防団	分団長	中井 里光
〃	小樽市消防団	分団長	奈良田 清
〃	網走地区消防組合女満別消防団	分団長	南 部 信
〃	日高中部消防組合三石消防団	分団長	西島 裕範
〃	釧路市消防団	分団長	西村 隆志
〃	札幌市西消防団	分団長	沼田 隆志
〃	北後志消防組合積丹消防団	分団長	能代谷 敏敏
〃	釧路北部消防事務組合弟子屈消防団	分団長	野田 彰
〃	白老町消防団	分団長	野島 謙雄
〃	旭川市消防団	分団長	畑山 義裕
〃	檜山広域行政組合今金町消防団	分団長	原口 良一
〃	岩内・寿都地方消防組合岩内消防団	分団長	樋口 行雄
〃	羊蹄山ろく消防組合ニセコ消防団	分団長	白久 積雅
〃	札幌市手稲消防団	分団長	日守 仁
〃	南渡島消防事務組合七飯消防団	分団長	藤根 明光
〃	岩見沢地区消防事務組合岩見沢消防団	分団長	松崎 淳一
〃	上川北部消防事務組合下川消防団	分団長	前田 和男
〃	西胆振消防組合社警消防団	分団長	真三 鍋盛
〃	根室市消防団	分団長	三好 三三
〃	赤平市消防団	分団長	三浦 日出男
〃	八雲町八雲消防団	分団長	水口 忠行

都道府県名	所属	階級	氏名
北海道	士別地方消防事務組合士別市消防団	分団長	三谷 伸一
〃	釧路東部消防組合浜中消防団	分団長	雪田 敏三
〃	帯広市消防団	分団長	吉田 宏
〃	利尻礼文消防事務組合利尻富士町消防団	分団長	吉田 利雄
〃	南宗谷消防組合浜頓別消防団	分団長	米山 弘志
〃	南十勝消防事務組合大樹消防団	分団長	南渡 達敏
〃	歌志内市消防団	副分団長	荒岡 克明
〃	稚内地区消防事務組合猿払消防団	副分団長	白田 清一
〃	登別市消防団	副分団長	高橋 清一
〃	檜山広域行政組合せたな町北檜山消防団	副分団長	菱田 行哲
〃	大雪消防組合美瑛消防団	副分団長	日向 輝明
〃	恵庭市消防団	副分団長	廣田 良臣
〃	稚内地区消防事務組合猿払消防団	副分団長	前田 聖子
〃	根室北部消防事務組合中標津消防団	副分団長	三枝 邦夫
〃	北見地区消防組合調子府消防団	副分団長	八島 俊宏
〃	南十勝消防事務組合広尾町消防団	団員	我妻 榮
青森県	むつ市消防団	団長	住吉 明夫
〃	平川市消防団	副団長	小山内 勝廣
〃	弘前市消防団	副団長	小野 春雄
〃	むつ市消防団	副団長	片川 春樹
〃	五所川原市消防団	副団長	古川 政信
〃	五所川原市消防団	副団長	小林 達弘
〃	東北町消防団	副団長	坂本 武雄
〃	平川市消防団	副団長	佐藤 昭仁
〃	弘前市消防団	副団長	佐藤 徹
〃	五戸町消防団	副団長	中里 光朋

都道府県名	所属	階級	氏名
青森県	弘前市消防団	副団長	中村 豊
〃	弘前市消防団	副団長	林 徳昭
〃	つがる市消防団	副団長	三浦 清徳
〃	外ヶ浜町消防団	副団長	柳谷 公徳
〃	内子町消防団	副団長	山下 清賢
〃	田舎館村消防団	副団長	山本 正志
〃	階上町消防団	分団長	荒谷 清志
〃	南部町消防団	分団長	石橋 隆
〃	八戸市消防団	分団長	大向 雅敏
〃	大鰐町消防団	分団長	小野 光一
〃	つがる市消防団	分団長	笠井 隆
〃	青森市青森消防団	分団長	木村 誠一
〃	黒石市消防団	分団長	工藤 清明
〃	六ヶ所村消防団	分団長	久保 一入
〃	黒石市消防団	分団長	齋藤 光隆
〃	風間浦村消防団	分団長	齋藤 敏一
〃	蓬田村消防団	分団長	坂本 重学
〃	青森市青森消防団	分団長	坂本 高明
〃	つがる市消防団	分団長	佐々木 勝男
〃	三沢市消防団	分団長	佐々木 美英
〃	おいらせ町消防団	分団長	佐々木 芳英
〃	青森市浪岡消防団	分団長	鈴木 克好
〃	むつ市消防団	分団長	須藤 正博
〃	八戸市消防団	分団長	藤 光雄
〃	七戸町消防団	分団長	藤 友昭
〃			附田 義勝

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名
青森県	今別町消防団	分団長	中 久 彰	岩手県	大船渡市消防団	副団長	新 沼 美 賀
	◇ 田子町消防団	分団長	中 村 尚		◇ 西和賀町消防団	副団長	新 沼 由 敬
	◇ 十和田市消防団	分団長	中 村 秀 雄		◇ 軽米町消防団	副団長	新 沼 日向 正 出
	◇ 横浜町消防団	分団長	中山 喜代		◇ 花巻市消防団	副団長	新 沼 日向 道 夫
	◇ 藤崎町消防団	分団長	中山 完 治		◇ 紫波町消防団	副団長	新 沼 原 上 幸 夫
	◇ 板柳町消防団	分団長	成 田 正 隆		◇ 陸前高田市消防団	副団長	新 沼 上 幸 夫
	◇ 八戸市消防団	分団長	成 田 光 明		◇ 葛巻町消防団	副団長	新 沼 本 見 典
	◇ 野辺地町消防団	分団長	正 馬 光 文		◇ 奥州市消防団	副団長	新 沼 谷 木 幸 夫
	◇ 三戸町消防団	分団長	松 山 敏 幸		◇ 岩泉町消防団	分団長	新 沼 谷 石 川 夫
	◇ 深浦町消防団	分団長	岡 山 敏 幸		◇ 盛岡市消防団	分団長	新 沼 石 伊 藤 夫
	◇ 佐井村消防団	分団長	宮 本 幸 雄		◇ 八幡平市消防団	分団長	新 沼 伊 藤 家 明
	◇ 南部町消防団	分団長	盛 谷 一 雄		◇ 一関市消防団	分団長	新 沼 氏 家 川 洋
	◇ 六戸町消防団	分団長	吉 田 実 隆		◇ 奥州市消防団	分団長	新 沼 及 小 川 吉 男
	◇ 青森市青森消防団	分団長	渡 邊 隆 一 徳		◇ 洋野町消防団	分団長	新 沼 小 原 合 吉 男
	◇ 鯉ヶ沢町消防団	副分団長	小 林 一 徳		◇ 普及村消防団	分団長	新 沼 小 原 村 喜 平
	◇ 大間町消防団	副分団長	傳 法 文 幸 夫		◇ 奥州市消防団	分団長	新 沼 小 川 久 喜 夫
	◇ 十和田市消防団	部 長	小山 田 悦 夫		◇ 北上市消防団	分団長	新 沼 久 保 田 清 吉
岩手県	遠野市消防団	団 長	井 手 純 幸	◇ 洋野町消防団	分団長	新 沼 久 保 田 清 吉	
	◇ 田野畑村消防団	団 長	富 山 保 幸	◇ 二戸市消防団	分団長	新 沼 小 林 清 吉	
	◇ 雫石町消防団	副団長	富 山 上 中 屋 敏 彦	◇ 盛岡市消防団	分団長	新 沼 小 齊 藤 博	
	◇ 北上市消防団	副団長	菊 池 一 人	◇ 釜石市消防団	分団長	新 沼 佐々木 信 夫	
	◇ 住田町消防団	副団長	紐 野 博 夫	◇ 宮古市消防団	分団長	新 沼 佐々木 信 夫	
	◇ 九戸村消防団	副団長	田 澤 信 正 男	◇ 花巻市消防団	分団長	新 沼 佐々木 修 二	
	◇ 金ヶ崎町消防団	副団長	千 手 葉 正 増	◇ 花巻市消防団	分団長	新 沼 佐 野 修 二	
	◇ 奥州市消防団	副団長	千 手 葉 正 増	◇ 釜石市消防団	分団長	新 沼 佐 野 修 二	
◇ 滝沢村消防団	副団長	中 田 清 義	◇ 一戸町消防団	分団長	新 沼 澤 清 義		
岩手県	洋野町消防団	分団長	下 田 博 美	岩手県	一関市消防団	副分団長	佐々木 一 朗
	◇ 大槌町消防団	分団長	外 薮 竹 男		◇ 一関市消防団	副分団長	佐々木 定 男
	◇ 宮古市消防団	分団長	田 舘 誠 一		◇ 一関市消防団	副分団長	千 手 田 演 男
	◇ 岩手町消防団	分団長	武 田 栄 一		◇ 一関市消防団	副分団長	千 手 葉 誠 一
	◇ 久慈市消防団	分団長	田 子 内 徳 一		◇ 一関市消防団	副分団長	田 北 利 義
	◇ 宮古市消防団	分団長	田 代 利 明		◇ 一関市消防団	副分団長	田 三 浦 道 男
	◇ 久慈市消防団	分団長	田 家 文 一		◇ 一関市消防団	副分団長	菅 川 清 喜 男
	◇ 平泉町消防団	分団長	千 手 葉 正 清		◇ 久慈市消防団	副分団長	佐々木 部 敏 一
	◇ 一関市消防団	分団長	千 手 葉 正 清		◇ 白石市消防団	団 員	部 敏 一
	◇ 一関市消防団	分団長	中 野 規 男		◇ 塩竈市浦戸消防団	団 長	内 海 勝 一
	◇ 宮古市消防団	分団長	中 村 草 部		◇ 登米市消防団	副団長	秋 山 光 徳
	◇ 矢巾町消防団	分団長	中 村 芳 雄		◇ 仙台市宮城消防団	副団長	安 達 清 久
	◇ 久慈市消防団	分団長	新井 谷 宣 夫		◇ 石巻市雄勝消防団	副団長	阿 部 壽 喜
	◇ 山田町消防団	分団長	森 泉 一		◇ 山元町消防団	副団長	阿 部 壽 喜
	◇ 宮古市消防団	分団長	藤 根 竹 見		◇ 亶理町消防団	副団長	齋 藤 幸 一
	◇ 釜石市消防団	分団長	平 野 貞 市		◇ 登米市消防団	副団長	佐々木 清 三
	◇ 野田村消防団	分団長	武 坂 文 功		◇ 登米市消防団	副団長	佐々木 金 三
◇ 盛岡市消防団	分団長	松 坂 房 利	◇ 石巻市河南消防団	副団長	佐々木 宏 一		
◇ 宮古市消防団	分団長	松 坂 栄 清	◇ 仙台市太白消防団	副団長	佐々木 藤 男		
◇ 岩手町消防団	分団長	民 部 田 正 一	◇ 登米市消防団	副団長	菅 原 英 義		
◇ 岩泉町消防団	分団長	八 重 樫 芳 令	◇ 角田市消防団	副団長	高 橋 正 一		
◇ 盛岡市消防団	分団長	八 重 畑 祐 幸	◇ 石巻市石巻消防団	副団長	高 橋 正 一		
◇ 宮古市消防団	分団長	小 山 正 法	◇ 登米市消防団	副団長	比 毛 川 太 郎		
◇ 一関市消防団	副分団長	小 山 喜 久	◇ 石巻市河北消防団	副団長	比 毛 川 太 郎		
◇ 一関市消防団	副分団長	菊 地 猛 一	◇ 富谷町消防団	副団長	松 田 幸 幸		

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名
宮城県	蔵王町消防団	副団長	八 島 敏 次	宮城県	川崎町消防団	分団長	尖 戸 善 夫
〃	石巻市北上消防団	副団長	山 内 孝 弘	〃	栗原市消防団	分団長	菅 野 行 一
〃	利府町消防団	分団長	赤 間 泰 夫	〃	大和町消防団	分団長	鈴 木 清 弘
〃	東松島市消防団	分団長	浅 野 勝 朗	〃	仙台市宮城野消防団	分団長	鈴 木 一 弘
〃	大崎市消防団	分団長	浅 野 良 悦	〃	美里町消防団	分団長	鈴 木 龍 一
〃	大崎市消防団	分団長	阿 部 義 行	〃	大崎市消防団	分団長	高 瀬 義 信
〃	丸森町消防団	分団長	石 塚 初 雄	〃	大崎市消防団	分団長	高 瀬 信 元
〃	栗原市消防団	分団長	石 川 宗 明	〃	涌谷町消防団	分団長	只 野 順 一
〃	丸森町消防団	分団長	伊 藤 昭 一	〃	涌谷町消防団	分団長	田 中 敏 幸
〃	大崎市消防団	分団長	伊 藤 優 一	〃	仙台市秋保消防団	分団長	丹 野 新 一
〃	大郷町消防団	分団長	氏 家 栄 次	〃	栗原市消防団	分団長	千 葉 秀 一
〃	美里町消防団	分団長	福 友 安 一	〃	仙台市秋保消防団	分団長	勅使河原 清 一
〃	岩沼市消防団	分団長	大 友 信 由	〃	大衡村消防団	分団長	長 澤 君 雄
〃	気仙沼市消防団	分団長	小 野 清 一	〃	栗原市消防団	分団長	三 浦 正 美
〃	色麻町消防団	分団長	金 子 政 雄	〃	仙台市青葉消防団	分団長	富 山 正 美
〃	栗原市消防団	分団長	熊 谷 孝 一	〃	大崎市消防団	分団長	草 坂 和 夫
〃	大崎市消防団	分団長	木 樽 莊 一	〃	柴田町消防団	分団長	平 間 泰 夫
〃	気仙沼市消防団	分団長	齋 藤 意 一	〃	名取市消防団	分団長	松 浦 泰 信
〃	東松島市消防団	分団長	齋 藤 文 孝	〃	栗原市消防団	分団長	三 浦 耕 一
〃	加美町消防団	分団長	佐 々 木 英 喜	〃	村田町消防団	分団長	三 浦 上 悦 一
〃	気仙沼市消防団	分団長	佐 々 木 紀 一	〃	大河原町消防団	分団長	村 村 上 富 男
〃	加美町消防団	分団長	佐 藤 喜 久 夫	〃	仙台市宮城消防団	分団長	結 城 吉 一
〃	気仙沼市消防団	分団長	佐 藤 浩 一	〃	大崎市消防団	分団長	横 山 茂 一
〃	白石市消防団	分団長	佐 藤 茂 一	〃	大崎市消防団	副分団長	横 山 均 一
〃	大崎市消防団	分団長	佐 藤 信 藏	〃	大崎市消防団	副分団長	安 村 栄 一
〃	南三陸町消防団	分団長	佐 藤 芳 朗	〃	栗原市消防団	副分団長	白 鳥 昭 一

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名
宮城県	美里町消防団	副分団長	菅 崎 秀 悦	秋田県	美郷町消防団	分団長	福 川 高 志
〃	大崎市消防団	副分団長	高 橋 久 信	〃	男鹿市消防団	分団長	太 田 昭 夫
〃	栗原市消防団	副分団長	三 浦 千 代 志	〃	能代市消防団	分団長	太 田 敏 明
秋田県	井川町消防団	団 長	遠 間 富 和 夫	〃	仙北市消防団	分団長	大 友 兼 夫
〃	三種町消防団	副団長	阿 部 山 千 代 志	〃	横手市十文字消防団	分団長	大 友 兼 夫
〃	八峰町消防団	副団長	阿 部 富 廣	〃	八郎潟町消防団	分団長	北 川 志 雄
〃	秋田市消防団	副団長	阿 部 吉 正	〃	大館市消防団	分団長	北 川 政 政
〃	由利本荘市消防団	副団長	石 塚 喜 代 隆	〃	秋田市消防団	分団長	熊 谷 釜 栄
〃	北秋田市消防団	副団長	太 田 兵 一	〃	大館市消防団	分団長	黒 川 耕 作
〃	横手市平鹿消防団	副団長	梅 崎 賢 司	〃	湯沢市消防団	分団長	黒 川 信 幸
〃	由利本荘市消防団	副団長	金 子 嘉 博	〃	仙北市消防団	分団長	軍 今 野 竹 四郎
〃	鹿角市消防団	副団長	兒 玉 誠 喜	〃	大館市消防団	分団長	齊 藤 始 一
〃	大仙市消防団	副団長	小 柳 伸 夫	〃	横手市内消防団	分団長	佐 々 木 雄 一
〃	由利本荘市消防団	副団長	今 野 文 夫	〃	大館市消防団	分団長	佐 藤 幸 治
〃	にかほ市消防団	副団長	佐 々 木 伸 一	〃	大仙市消防団	分団長	菅 野 久 信
〃	藤里町消防団	副団長	佐 々 木 忠 久	〃	男鹿市消防団	分団長	鈴 木 敏 信
〃	大仙市消防団	副団長	佐 藤 文 一	〃	湯上市消防団	分団長	薄 田 則 一
〃	秋田市消防団	副団長	鈴 木 正 一	〃	仙北市消防団	分団長	高 瀬 芳 孝
〃	湯上市消防団	副団長	高 橋 寛 儀	〃	横手市大森消防団	分団長	高 橋 亮 介
〃	美郷町消防団	副団長	高 橋 正 尚	〃	大館市消防団	分団長	高 橋 喜 一
〃	秋田市消防団	副団長	高 橋 後 忠	〃	大仙市消防団	分団長	西 嶋 次 男
〃	鹿角市消防団	副団長	朝 石 博 之	〃	横手市雄物川消防団	分団長	長 谷 喜 一
〃	能代市消防団	分団長	安 保 治 夫	〃	大館市消防団	分団長	藤 原 良 一
〃	秋田市消防団	分団長	石 井 昇 一	〃	秋田市消防団	分団長	松 松 功 一
〃	大館市消防団	分団長	川 久 晴 一	〃	北秋田市消防団	分団長	船 橋 浦 登
〃	五城目町消防団	分団長	伊 藤 辰 雄	〃	能代市消防団	分団長	丸 谷 明 一

都道府県名	所属	階級	氏名	都道府県名	所属	階級	氏名		
秋田県	横手市十文字消防団	分団長	三浦 由三	山形県	新庄市消防団	分団長	星川 樹		
	◇ 大館市消防団	分団長	三浦 教三		◇ 戸沢村消防団	分団長	星川 津		
	◇ 能代市消防団	分団長	茂呂 信博		◇ 酒田市消防団	分団長	三浦 智		
	◇ 大仙市消防団	分団長	山影 栄昇		◇ 金山町消防団	分団長	三浦 上		
	◇ 羽後町消防団	分団長	山泉 嘉郎		◇ 鶴岡市消防団	分団長	三浦 史		
	◇ 男鹿市消防団	副分団長	進藤 清悦		◇ 酒田市消防団	分団長	三浦 志		
	山形県	飯豊町消防団	団長		由比 隆雄	◇ 大蔵村消防団	分団長	八木 茂志	
		◇ 鶴岡市消防団	副団長		佐藤 茂喜	◇ 哀室川町消防団	分団長	八木 喜敏	
		◇ 白鷹町消防団	副団長		平盛 和敏	◇ 小国町消防団	分団長	八木 敏	
		◇ 山形市消防団	副団長		高野 英昭	◇ 酒田市消防団	分団長	八木 健	
◇ 村山市消防団		副団長	田中 雅幸	◇ 天童市消防団	副分団長	八木 治			
◇ 鶴岡市消防団		副団長	成澤 修	◇ 鶴岡市消防団	副分団長	八木 義			
◇ 鶴岡市消防団		副団長	長谷川 悟	◇ 新庄市消防団	部長	八木 勇			
◇ 酒田市消防団		分団長	五十嵐 慎一	◇ 南陽市消防団	団員	八木 一			
◇ 西川町消防団		分団長	遠藤 隆一	◇ 長井市消防団	団員	八木 後			
◇ 河北町消防団		分団長	太田 等	福島県	鏡石町消防団	団長	大河原 正雄		
◇ 庄内町消防団	分団長	門脇 勝憲	◇ 柳倉町消防団		団長	大河原 孝			
◇ 最上町消防団	分団長	岸田 錦也	◇ 福島市消防団		副団長	安齋 四郎			
◇ 鮎川村消防団	分団長	山久 一	◇ 田村市消防団		副団長	安齋 泉之			
◇ 遊佐町消防団	分団長	金野 勝秀	◇ 天栄村消防団		副団長	木野 清秀			
◇ 米沢市消防団	分団長	佐藤 仁八	◇ 柳津町消防団		副団長	鈴木 正八			
◇ 舟形町消防団	分団長	庄司 洋孝	◇ 平田村消防団		副団長	鈴木 孝			
◇ 山辺町消防団	分団長	菅井 康博	◇ 平田村消防団		副団長	瀬谷 文			
◇ 山形市消防団	分団長	関野 貞一	◇ 田村市消防団		副団長	瀬谷 田			
◇ 庄内町消防団	分団長	長南 護之	◇ 南会津町消防団		副団長	星野 敏之			
◇ 朝日町消防団	分団長	長岡 秀典	◇ 小野町消防団	副団長	星野 邊				
都道府県名	所属	階級	氏名	都道府県名	所属	階級	氏名		
	福島県	西会津町消防団	分団長		青木 義時	福島県	飯館村消防団	副分団長	菊地 昇
		◇ 飯館村消防団	分団長		赤石澤 傳		◇ 福島市消防団	副分団長	佐藤 幸司
		◇ 飯館村消防団	分団長		赤石澤 富夫		◇ 福島市消防団	副分団長	藤本 福司
		◇ 相馬市消防団	分団長		阿部 繁雄		◇ 福島市消防団	副分団長	田中 悦夫
		◇ 川内村消防団	分団長		猪狩 文雄		◇ 福島市消防団	副分団長	田中 義夫
		◇ 伊達市消防団	分団長		氏家 久雄		◇ 福島市消防団	副分団長	富田 村要
		◇ 福島市消防団	分団長		内山 久彦		◇ 福島市消防団	副分団長	山形 彰彦
		◇ 西会津町消防団	分団長		海老名 治男		◇ 福島市消防団	副分団長	山田 誠
		◇ 喜多方市消防団	分団長		天竹 敏光		◇ 会津若松市消防団	班長	小山 亮
◇ いわき市消防団		分団長	高田 和則	◇ いわき市消防団	団員		草野 忠彦		
◇ 会津若松市消防団	分団長	小澤 廣文	茨城県	美浦村消防団	団長	武田 芳雄			
◇ 矢吹町消防団	分団長	小加 誠夫		◇ 笠間市消防団	団長	深谷 一郎			
◇ いわき市消防団	分団長	木田 和雄		◇ 筑西市消防団	副団長	枝野 弘			
◇ 伊達市消防団	分団長	齋藤 貞司		◇ 城里町消防団	副団長	大崎 一夫			
◇ いわき市消防団	分団長	鈴木 一美		◇ つくば市消防団	副団長	片岡 賢司			
◇ 福島市消防団	分団長	鈴木 正勝		◇ 常総市消防団	副団長	草間 順司			
◇ 南相馬市消防団	分団長	高橋 正勝		◇ 鉾田市消防団	副団長	栗原 修			
◇ 福島市消防団	分団長	丹野 博		◇ 古河市消防団	副団長	藤崎 卓			
◇ 会津若松市消防団	分団長	中島 武三		◇ つくば市消防団	副団長	土田 政司			
◇ 南会津町消防団	分団長	中野 春典		◇ 筑西市消防団	副団長	土田 利			
◇ 三島町消防団	分団長	中二 義徳	◇ 土浦市消防団	副団長	土田 一利				
◇ 福島市消防団	副分団長	阿部 正一	◇ 水戸市消防団	副団長	人見 重明				
◇ 福島市消防団	副分団長	石川 明義	◇ 石岡市消防団	副団長	山内 直行				
◇ 伊達市消防団	副分団長	梅澤 博之	◇ 守谷市消防団	副団長	吉田 夫				
◇ 福島市消防団	副分団長	梅野 忠文	◇ 那珂市消防団	分団長	吉田 利光				
◇ 福島市消防団	副分団長	霞 正人	◇ 茂木町消防団	団長	大滝 初夫				

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名	
栃木県	大田原市消防団	副団長	植竹 英夫	埼玉県	川口市消防団	分団長	安藤 勝	
	那須塩原市黒磯消防団	副団長	澤井 正栄		さいたま市消防団	分団長	福嶋 毅	
	日光市藤原消防団	副団長	柏木 大		川口市消防団	分団長	大谷 富夫	
	栃木市消防団	副団長	川津 博夫		川口市消防団	分団長	大野 義好	
	さくら市消防団	副団長	高橋 秀知		行田市消防団	分団長	大天 雄正	
	那須塩原市塩原消防団	副団長	藤田 季一		加須市消防団加須消防団	分団長	大川 利男	
	那珂川町消防団	副団長	藤原 昌和		さいたま市消防団	分団長	大宮 友明	
	群馬県	千代田消防団	団長		藤原 中盛	松伏町消防団	分団長	大川 小島
		神流町消防団	団長		本田 昭	さいたま市消防団	分団長	小島 民
		片品村消防団	団長		本田 三忠	熊谷市消防団	分団長	小島 沼彦
前橋市消防団		副団長	猪俣 幸雄	菅野町消防団	分団長	小島 重信		
草津町消防団		副団長	大熊 利夫	さいたま市消防団	分団長	小芝 琢弘		
高崎市消防団		副団長	須藤 欣司	戸田市消防団	分団長	清水 水稔		
桐生市消防団		副団長	藤原 芳男	行田市消防団	分団長	清水 正三		
上野村消防団		副団長	松元 平吉	川口市消防団	分団長	高橋 山利		
沼田市消防団		分団長	風間 知晴	久喜地区消防組合菖蒲消防団	分団長	辻 正		
大泉町消防団		分団長	山口 善之	さいたま市消防団	分団長	野崎 満		
安中市消防団	分団長	吉澤 恒雄	熊谷市消防団	分団長	原 久男			
邑楽消防団	団員	船新井 昌弘	川口市消防団	分団長	野原 勇			
富岡市消防団	団員	小林 進	幸手市消防団	分団長	船川 一郎			
館林消防団	団員	丸岡 栄一	加須市消防団加須消防団	分団長	松村 和夫			
埼玉県	西入間広域消防組合毛呂山消防団	団長	菅 柳 章	鴻巣市消防団	分団長	三谷 和正		
	杉戸町消防団	団長	金久保 繁	さいたま市消防団	分団長	望月 三孝		
	北本市消防団	団長	道祖土 友光	蕨市消防団	分団長	辺 達彦		
	さいたま市消防団	副団長	倉田 健次	春日部市春日部消防団	副分団長	梅谷 正之		
	秩父市消防団	副団長	篠塚 良一	越谷市消防団	副分団長	栗原 幹雄		

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名
埼玉県	越谷市消防団	副分団長	小林 三三	千葉県	南房総市消防団	副団長	安田 稔
	さいたま市消防団	副分団長	佐藤 栄孝		船橋市消防団	副団長	渡辺 義博
	さいたま市消防団	副分団長	佐藤 吉治		山武市消防団	分団長	井上 孝一
	春日部市春日部消防団	副分団長	細井 正夫		成田市消防団	分団長	佐瀬 次郎
	幸手市消防団	副分団長	松澤 晃		野田市消防団	分団長	芝田 木太郎
	さいたま市消防団	副分団長	吉野 忍		栄町消防団	分団長	鈴木 芳一
	越谷市消防団	部長	榮谷 浩次		八街市消防団	分団長	龍崎 昭
	春日部市春日部消防団	団員	坂巻 雄		成田市消防団	分団長	幸内 大蔵
	三郷市消防団	団員	鈴木 信一		山武市消防団	分団長	山崎 清
	三郷市消防団	団員	増田 昌昌		流山市消防団	分団長	山崎 昌昌
千葉県	印西市消防団	副団長	石川 太巳	勝浦市消防団	副分団長	横竹 信之	
	芝山町消防団	副団長	伊藤 茂雄	勝浦市消防団	班長	中村 仁	
	松戸市消防団	副団長	榎本 道雄	八街市消防団	班長	平山 章	
	八千代市消防団	副団長	太田 保	四街道市消防団	団員	麻生 豊	
	市原市消防団	副団長	大野 善夫	新宿消防団	団員	石田 予一	
	白井市消防団	副団長	川上 正紀	奥多摩町消防団	団長	長田 一雄	
	鴨川市消防団	副団長	川崎 浩之	東大和市消防団	団長	中澤 安成	
	佐倉市消防団	副団長	櫻井 道明	野方消防団	団長	長野 正勝	
	鎌ヶ谷市消防団	副団長	鈴木 有光	東久留米市消防団	団長	横山 隆徳	
	館山市消防団	副団長	鈴木 志	八丈町消防団	副団長	沼清 孝	
東京都	館南町消防団	副団長	大胡 昌広	城東消防団	副団長	安食 浩一郎	
	千葉市消防団	副団長	高橋 義信	小笠原村消防団	副団長	桶根 政孝	
	いすみ市消防団	副団長	高梨 庸市	赤羽消防団	副団長	小形 浩子	
	印西市消防団	副団長	瀧田 敏幸	深川消防団	副団長	小形 憲一	
	習志野市消防団	副団長	中 昌利	蒲田消防団	副団長	加藤 夫	
	千葉市消防団	副団長	山 正信	玉川消防団	副団長	小林 浩	

都道府県名	所属	階級	氏名
東京都	昭島市消防団	副団長	小山 雅生
〃	本田消防団	副団長	齋藤 靖
〃	武蔵野市消防団	副団長	櫻井 真二郎
〃	国立市消防団	副団長	佐藤 洋
〃	荏原消防団	副団長	佐藤 明
〃	麩町消防団	副団長	清水 耕仁
〃	千住消防団	副団長	鈴木 水
〃	荒川消防団	副団長	鈴木 燭
〃	高輪消防団	副団長	井高 良
〃	光が丘消防団	副団長	高瀬 正
〃	上野消防団	副団長	竹田 和生
〃	田園調布消防団	副団長	竹野 順
〃	品川消防団	副団長	竹谷 敏之
〃	杉並消防団	副団長	田中 昭
〃	王子消防団	副団長	野原 義昭
〃	芝消防団	副団長	早川 喜三郎
〃	荒川消防団	副団長	原田 雄
〃	石神井消防団	副団長	原田 清司
〃	向島消防団	副団長	福水 勝
〃	足立消防団	副団長	藤野 利光
〃	本所消防団	副団長	箕輪 善康
〃	志村消防団	副団長	柳下 一郎
〃	尾久消防団	副団長	山田 裕
〃	江戸川消防団	副団長	渡邊 辰
〃	大森消防団	分団長	青木 修三
〃	矢口消防団	分団長	青木 英明

都道府県名	所属	階級	氏名
東京都	滝野川消防団	分団長	石井 正
〃	豊島消防団	分団長	塚本 武文
〃	志村消防団	分団長	入野 武良
〃	練馬消防団	分団長	野田 廣賢
〃	西新井消防団	分団長	上内 昌一
〃	大井消防団	分団長	川崎 清志
〃	中野消防団	分団長	川崎 名
〃	渋谷消防団	分団長	川崎 吉
〃	神田消防団	分団長	北村 晴
〃	大島町消防団	分団長	清村 勇
〃	日本堤消防団	分団長	榎沼 年
〃	京橋消防団	分団長	後藤 克雄
〃	麻布消防団	分団長	小林 弘
〃	目黒消防団	分団長	小島 利久
〃	臨港消防団	分団長	酒井 利久
〃	牛込消防団	分団長	佐々木 利久
〃	四谷消防団	分団長	佐々木 好
〃	池袋消防団	分団長	佐藤 英
〃	小石川消防団	分団長	高津 民雄
〃	葛西消防団	分団長	高津 谷
〃	浅草消防団	分団長	納原 幸
〃	世田谷消防団	分団長	原 基
〃	荏原消防団	分団長	伯耆原 治
〃	日本橋消防団	分団長	増田 雄
〃	赤坂消防団	分団長	松浦 栄一
〃	板橋消防団	分団長	村上 平治

都道府県名	所属	階級	氏名
東京都	小岩消防団	分団長	森田 英雄
〃	金町消防団	分団長	若林 清
〃	荻窪消防団	分団長	若林 秋三
〃	成城消防団	副分団長	大山大 雄
神奈川県	相模原市藤野消防団	団長	清水 映彦
〃	横浜市長谷町消防団	団長	程島 正
〃	三浦市消防団	副団長	秋本 清道
〃	横浜市港南消防団	副団長	大橋 末藏
〃	横浜市緑消防団	副団長	岡部 一郎
〃	横浜市港南消防団	副団長	織茂 大治
〃	鎌倉市消防団	副団長	小宮 幸二
〃	箱根町消防団	副団長	佐須 英行
〃	平塚市消防団	副団長	新倉 康正
〃	川崎市多摩消防団	副団長	増田 朝光
〃	横浜市西消防団	副団長	矢部 孝一
〃	横浜市南消防団	分団長	有賀 和彦
〃	横浜市都筑消防団	分団長	市川 満男
〃	横浜市鶴見消防団	分団長	岩井 準
〃	横浜市神奈川消防団	分団長	枝川 一
〃	横浜市西消防団	分団長	大塚 孝
〃	川崎市宮前消防団	分団長	小川 昇
〃	横浜市山手消防団	分団長	加賀山 實
〃	横浜市港北消防団	分団長	加藤 修
〃	横浜市磯子消防団	分団長	金子 志
〃	横浜市瀬谷消防団	分団長	金子 秀
〃	横浜市戸塚消防団	分団長	金子 剛
〃	横浜市磯子消防団	分団長	金子 保雄

都道府県名	所属	階級	氏名
神奈川県	横浜市磯子消防団	分団長	川村 清治
〃	横浜市保土ヶ谷消防団	分団長	久保田 昭治
〃	横浜市緑消防団	分団長	小嶋 光男
〃	横浜市戸塚消防団	分団長	齊藤 耐
〃	横浜賀市消防団	分団長	佐々木 四男
〃	横浜市保土ヶ谷消防団	分団長	佐々木 稔
〃	横浜市旭消防団	分団長	杉山 光雄
〃	横浜賀市消防団	分団長	鈴木 崇二
〃	横浜賀市消防団	分団長	鈴木 敏明
〃	逗子市消防団	分団長	鈴木 元
〃	横浜市栄消防団	分団長	須藤 伊佐夫
〃	横浜市泉消防団	分団長	高木 久男
〃	川崎市臨港消防団	分団長	高橋 正明
〃	逗子市消防団	分団長	田畑 茂
〃	横浜市金沢消防団	分団長	水島 誠
〃	横浜市鶴見消防団	分団長	新倉 茂人
〃	横浜市瀬谷消防団	分団長	新倉 龍夫
〃	横浜市神奈川消防団	分団長	福田 茂
〃	川崎市中原消防団	分団長	福田 雄
〃	横浜市青葉消防団	分団長	松本 施
〃	横浜市山手消防団	分団長	松山 秀雄
〃	秦野市消防団	分団長	森谷 保夫
〃	横浜市港北消防団	分団長	山崎 繁
〃	小田原市消防団	分団長	山崎 崎
〃	横浜市金沢消防団	分団長	山崎 剛
〃	横浜市栄消防団	分団長	若原 倉
〃	横浜市栄消防団	分団長	若原 邦男

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名		
神奈川県	横浜市内消防団	分団長	浦 正 夫	新潟県	新潟市消防団	副団長	星 山 勇		
	茅ヶ崎市消防団	副分団長	阿久津 正 明		〃	長岡市消防団	副団長	井 岸 芳 廣	
	横浜市伊勢佐木消防団	副分団長	伊 藤 利 昭		〃	糸魚川市消防団	副団長	山 岸 一 範	
	横浜市都筑消防団	副分団長	齋 藤 公 一		〃	新潟市消防団	副団長	若 野 浩 和	
	横浜市青葉消防団	副分団長	廣 田 豊 彦		〃	佐渡市消防団	副団長	石 井 野 弘	
	藤沢市消防団	副分団長	福 岡 則 夫		〃	新潟市消防団	副団長	渡 邊 正 登	
	横浜市加賀町消防団	副分団長	八 巻 健 司		〃	糸魚川市消防団	分団長	石 井 順 一	
	横浜市伊勢佐木消防団	部 長	秋 津 茂 守		〃	新潟市消防団	分団長	磯 部 博 志	
	新潟県	見附市消防団	団 長		板 垣 正 三	〃	阿賀野市消防団	分団長	江 上 正 志
		田上町消防団	副団長		相 田 秀 男	〃	佐渡市消防団	分団長	川 藤 晶 高
南魚沼市消防団		副団長	井 井 春 文	〃	長岡市消防団	分団長	小 川 一 郎		
佐渡市消防団		副団長	石 川 正 志	〃	佐渡市消防団	分団長	北 村 佐 吉		
佐渡市消防団		副団長	石 塚 哲 夫	〃	佐渡市消防団	分団長	小 坂 慎 二		
上越市消防団		副団長	小 川 時 夫	〃	五泉市消防団	分団長	小 小 利 一		
南魚沼市消防団		副団長	上 村 賢 司	〃	柏崎市消防団	分団長	小 林 茂 茂		
阿賀町消防団		副団長	後 藤 常 市	〃	十日町市消防団	分団長	岡 谷 敏 明		
弥彦村消防団		副団長	小 林 一 也	〃	新潟市消防団	分団長	高 橋 文 雄		
新潟市消防団		副団長	小 正 幸 一	〃	津南町消防団	分団長	田 崎 清 春		
長岡市消防団		副団長	齋 藤 洋 介	〃	柏崎市消防団	分団長	田 田 重 政		
三条市消防団		副団長	佐々木 一 光	〃	妙高市消防団	分団長	主 田 隆 夫		
加茂市消防団		副団長	鈴 木 道 雄	〃	柏崎市消防団	分団長	高 井 正 美		
湯沢町消防団		副団長	高 井 宏 行	〃	糸魚川市消防団	分団長	廣 井 直 一		
長岡市消防団		副団長	外 川 義 太郎	〃	十日町市消防団	分団長	藤 田 久 吉		
上越市消防団		副団長	戸 田 一 之 之	〃	魚沼市消防団	分団長	星 山 正 利		
十日町市消防団	副団長	富 山 登 一	〃	津南町消防団	分団長	山 田 龍 一			
村上市消防団	副団長	中 山 卯 一郎	〃	新潟市消防団	副分団長	井 上 勝 一			
富山県	滑川市消防団	団 長	山 岸 和 好	石川県	能登町消防団	副団長	新 出 鉄 夫		
	富山市消防団	副団長	井 井 幸 雄		〃	輪島市消防団	副団長	田 島 啓 一	
	富山市消防団	副団長	石 本 昭 一		〃	七尾鹿島広域圏事務組合第3消防団	副団長	辻 建 一 範	
	砺波市消防団	副団長	細 田 勉 一		〃	かほく市消防団	副団長	寺 口 武 義	
	富山市消防団	副団長	本 藤 一 徳		〃	金沢市第二消防団	副団長	岡 田 正 門	
	魚津市消防団	副団長	高 瀬 輝 夫		〃	七尾鹿島広域圏事務組合第1消防団	副団長	山 田 武 雄	
	富山市消防団	副団長	嶋 波 邦 博		〃	小松市消防団	分団長	油 本 徳 治	
	富山市消防団	副団長	西 村 重 隆		〃	珠洲市消防団	分団長	風 本 善 勇	
	南砺市消防団	副団長	野 原 哲 二		〃	穴水町消防団	分団長	二 社 谷 清	
	射水市消防団	副団長	野 村 良 範		〃	加賀市消防団	分団長	宮 崎 眞 弘	
	高岡市消防団	分団長	内 田 豊 一		〃	宝達志水町消防団	分団長	本 山 榮 次	
	氷見市消防団	分団長	川 淵 俊 五郎		〃	川北町消防団	部 長	西 村 意 人	
	上市町消防団	分団長	酒 井 敏 明		福井県	福井市消防団	団 長	北 嶋 正 輝	
	射水市消防団	分団長	澤 邊 明 雄			〃	南越消防組合南越前消防団	団 長	谷 口 助 助
	富山市消防団	分団長	高 岡 外 喜 雄			〃	若狭消防組合おおい消防団	副団長	上 山 一 義
	魚津市消防団	分団長	高 倉 敏 長			〃	敦賀美方消防組合敦賀消防団	副団長	村 中 忠 義
	高岡市消防団	分団長	高 橋 和 司			〃	若狭消防組合おおい消防団	分団長	時 岡 克 知
	射水市消防団	分団長	竹 中 敏 一			山梨県	富士河口湖町消防団	副団長	小 川 清 治
高岡市消防団	分団長	丹 羽 政 文	〃	上野原市消防団	副団長		上 條 政 教		
富山市消防団	分団長	塚 原 茂 樹	〃	富士川町消防団	副団長		保 倉 勝 秀		
魚津市消防団	分団長	辻 谷 裕 司	〃	大月市消防団	副団長		森 屋 勝 一		
黒部市消防団	分団長	中 谷 幹 雄	〃	甲府市消防団	分団長		中 田 公 三		
射水市消防団	分団長	長谷川 孝 喜	〃	甲府市消防団	分団長		中 沢 一 樹		
高岡市消防団	分団長	田 成 光 男	〃	都留市消防団	分団長	中 三 三 郎			
石川県	野々市市消防団	団 長	清 水 一 男	〃	並崎市消防団	分団長	比 根 志 一		
	志賀町消防団	副団長	櫻 井 俊 一	〃	甲斐市消防団	分団長	横 森 弘 光		

都道府県名	所属	階級	氏名	都道府県名	所属	階級	氏名
山梨県	甲府市消防団	団員	中村 公男	岐阜県	中津川市消防団	副団長	安保 康明
◇	北杜市消防団	団員	藤原 利光	◇	関市消防団	副団長	久井 久治
長野県	天龍村消防団	団長	藤原 清洋	◇	下呂市消防団	副団長	今井 井清
◇	王滝村消防団	団長	後藤 代洋	◇	各務原市消防団	副団長	権上 晃雄
◇	中野市消防団	団長	増田 善行	◇	高山市消防団	副団長	木村 大彦
◇	木祖村消防団	団長	山田 陽一	◇	中津川市消防団	副団長	大田 山彦
◇	筑北村消防団	団長	山田 秀陽	◇	下呂市消防団	副団長	大田 義浩
◇	木曾町消防団	副団長	若橋 大謙	◇	高山市消防団	副団長	大田 本義
◇	御代田町消防団	副団長	萩原 和	◇	美濃市消防団	副団長	近藤 藤藏
◇	長野市消防団	副団長	萩原 和	◇	関市消防団	副団長	近藤 利郎
◇	長野市消防団	副団長	萩原 和	◇	北方町消防団	副団長	棚橋 三男
◇	木曾町消防団	副団長	萩原 和	◇	下呂市消防団	副団長	棚橋 三男
◇	松本市消防団	副団長	萩原 和	◇	瑞穂市消防団	副団長	棚橋 三男
◇	木島平村消防団	副団長	萩原 和	◇	高山市消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	佐久市消防団	副団長	萩原 和	◇	高山市消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	南相木村消防団	副団長	萩原 和	◇	関市消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	平谷村消防団	副団長	萩原 和	◇	関市消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	松本市消防団	副団長	萩原 和	◇	揖斐川町消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	長野市消防団	副団長	萩原 和	◇	垂井町消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	軽井沢町消防団	副団長	萩原 和	◇	下呂市消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	松本市消防団	副団長	萩原 和	◇	郡上市消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	長野市消防団	副団長	萩原 和	◇	下呂市消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	瑞浪市消防団	副団長	萩原 和	◇	池田町消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	関市消防団	副団長	萩原 和	◇	下呂市消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	瑞浪市消防団	副団長	萩原 和	◇	下呂市消防団	副団長	堀内 幸雄
◇	本巣市消防団	副団長	萩原 和	◇	恵那市消防団	副団長	堀内 幸雄
岐阜県	瑞浪市消防団	副団長	萩原 和				
◇	関市消防団	副団長	萩原 和				
◇	瑞浪市消防団	副団長	萩原 和				
◇	本巣市消防団	副団長	萩原 和				
都道府県名	所属	階級	氏名	都道府県名	所属	階級	氏名
岐阜県	瑞浪市消防団	副団長	山田 桂三	愛知県	名古屋山吹消防団	団長	飯田 進
◇	中津川市消防団	副団長	山田 桂三	◇	名古屋星ヶ丘消防団	団長	飯田 進
◇	関市消防団	副団長	山田 桂三	◇	名古屋中島消防団	団長	飯田 進
静岡県	磐田市消防団	団長	山田 桂三	◇	岡崎市常磐消防団	団長	飯田 進
◇	南伊豆町消防団	団長	山田 桂三	◇	名古屋城西消防団	団長	飯田 進
◇	焼津市消防団	副団長	山田 桂三	◇	名古屋市道徳消防団	副団長	飯田 進
◇	松崎町消防団	副団長	山田 桂三	◇	日進市消防団	副団長	飯田 進
◇	静岡市消防団	副団長	山田 桂三	◇	名古屋鳴子消防団	副団長	飯田 進
◇	熱海市消防団	副団長	山田 桂三	◇	岡崎市広幡消防団	副団長	飯田 進
◇	浜松市消防団	副団長	山田 桂三	◇	名古屋六郷北消防団	副団長	飯田 進
◇	焼津市消防団	副団長	山田 桂三	◇	名古屋島羽見消防団	副団長	飯田 進
◇	静岡市消防団	副団長	山田 桂三	◇	名古屋大坪消防団	副団長	飯田 進
◇	静岡市消防団	副団長	山田 桂三	◇	稲沢市消防団	副団長	飯田 進
◇	吉田町消防団	副団長	山田 桂三	◇	江南市消防団	副団長	飯田 進
◇	静岡市消防団	副団長	山田 桂三	◇	津島市消防団	副団長	飯田 進
◇	富士市消防団	副団長	山田 桂三	◇	瀬戸市消防団	副団長	飯田 進
◇	富士宮市消防団	副団長	山田 桂三	◇	北名古屋消防団	副団長	飯田 進
◇	島田市消防団	副団長	山田 桂三	◇	一宮市消防団	副団長	飯田 進
◇	富士市消防団	副団長	山田 桂三	◇	一宮市消防団	副団長	飯田 進
◇	富士市消防団	副団長	山田 桂三	◇	大治町消防団	副団長	飯田 進
◇	小山町消防団	副団長	山田 桂三	◇	豊田市消防団	副団長	飯田 進
◇	伊東市消防団	副団長	山田 桂三	◇	江南市消防団	副団長	飯田 進
◇	沼津市消防団	副団長	山田 桂三	◇	一宮市消防団	副団長	飯田 進
◇	沼津市消防団	副団長	山田 桂三	◇	一宮市消防団	副団長	飯田 進
◇	三島市消防団	副団長	山田 桂三	◇	江南市消防団	副団長	飯田 進
愛知県	名古屋市福西消防団	副団長	山田 桂三	三重県	多気町消防団	副団長	山田 桂三

都道府県名 所属	階級	氏名	都道府県名 所属	階級	氏名
三重県 大台町消防団	副団長	小 椋 浩一	滋賀県 多賀町消防団	副団長	竹 内 薫
〃 津市消防団	副団長	瀬 井 巳 巳	〃 大津市消防団	副団長	津 田 治
〃 菟野町消防団	副団長	佐々木 清 春	〃 守山市消防団	副団長	平 井 壽 一
〃 玉城町消防団	副団長	濱 口 廣 樹	〃 米原市消防団	副団長	福 永 武 二
〃 松阪市消防団	副団長	山 川 良 樹	〃 東近江市消防団	副団長	瀬 川 武 二
〃 伊勢市消防団	分団長	梅 田 薫 一	〃 湖南市消防団	副団長	吉 田 眞 二
〃 桑名市消防団	分団長	川 東 幸 一	京都府 舞鶴市八雲消防団	団長	山 田 三 弘
〃 亀山市消防団	分団長	北 川 賢 一	〃 京都市右京消防団	副団長	岡 正 弘
〃 鈴鹿市消防団	分団長	杉 本 賢 一	〃 伊根町消防団	副団長	岡 正 弘
〃 桑名市消防団	分団長	水 谷 司 一	〃 京都市北消防団	副団長	宇 佐 美 文
〃 熊野市消防団	分団長	向 山 司 一	〃 木津川市消防団	副団長	太 田 文 昭
〃 伊勢市消防団	分団長	谷 根 昭 一	〃 京丹後市消防団	副団長	野 正 昭 一
〃 紀宝町消防団	分団長	山 根 忠 一	〃 与謝野町消防団	副団長	小 長 谷 淳 一
〃 四日市市消防団	分団長	山 根 正 一	〃 長岡京市消防団	副団長	地 橋 尚 一
〃 松阪市消防団	分団長	米 田 章 一	〃 京丹波町消防団	副団長	栗 林 英 治
〃 松阪市消防団	副分団長	水 谷 忠 一	〃 綾部市消防団	副団長	馬 嶋 治 志
〃 熊野市消防団	副分団長	岡 崎 年 一	〃 南丹市消防団	副団長	森 山 悟 二
〃 四日市市消防団	部長	伊 藤 明 一	〃 京都市中京消防団	副団長	若 林 孝 二
〃 紀宝町消防団	部長	遠 藤 純 一	〃 宇治市消防団	分団長	大 西 康 一
〃 四日市市消防団	部長	田 中 建 作 一	〃 木津川市消防団	分団長	大 西 康 一
滋賀県 野洲市消防団	副団長	今 井 正 三 一	〃 京都市左京消防団	分団長	小 林 秀 治 一
〃 大津市消防団	副団長	芹 園 長 司 一	〃 京都市山科消防団	分団長	中 野 秀 治 一
〃 彦根市消防団	副団長	小 林 和 夫 一	〃 京都市東山消防団	分団長	沼 田 常 一
〃 米原市消防団	副団長	小 林 元 郎 一	〃 京都市左京消防団	分団長	原 田 三 郎 一
〃 野洲市消防団	副団長	小 山 義 弘 一	〃 八幡市消防団	分団長	東 村 俊 一
〃 甲良町消防団	副団長	佐々木 清 一	〃 京都市伏見消防団	分団長	藤 野 幸 一

都道府県名 所属	階級	氏名	都道府県名 所属	階級	氏名
京都府 井手町消防団	分団長	吉 川 和 男 一	大阪府 東大阪市消防団	分団長	中 田 浩 之 郎 一
〃 宮津市消防団	分団長	吉 橋 正 司 一	〃 茨木市消防団	分団長	西 川 三 郎 一
〃 京都市右京消防団	分団長	村 上 和 彦 一	〃 高槻市消防団	分団長	西 村 武 二 郎 一
〃 京都市上京消防団	分団長	森 田 勉 一	〃 富田林市消防団	分団長	橋 川 光 司 一
〃 宇治市消防団	副分団長	石 光 博 一	〃 茨木市消防団	分団長	東 浦 忠 和 一
〃 井手町消防団	副分団長	鎌 田 隆 宏 一	〃 豊中市消防団	分団長	本 末 政 一
〃 精華町消防団	副分団長	田 秀 之 三 一	〃 太子町消防団	分団長	松 村 幸 三 一
〃 宇治市消防団	副分団長	西 川 康 史 一	〃 羽曳野市消防団	分団長	山 本 明 一 男 一
〃 精華町消防団	班長	田 中 守 男 一	〃 松原市消防団	分団長	吉 川 正 行 一
〃 精華町消防団	団員	竹 内 史 知 一	〃 河内長野市消防団	副分団長	上 田 中 政 一
大阪府 千早赤阪村消防団	副団長	秋 山 正 元 一	〃 河内長野市消防団	副分団長	上 野 尚 一 昇 一
〃 吹田市消防団	副団長	岡 本 一 弘 一	〃 柏原市消防団	副分団長	北 口 好 則 一
〃 河南町消防団	副団長	杉 原 勝 一	〃 富田林市消防団	副分団長	境 家 俊 一 壽 一
〃 岬町消防団	副団長	玉 置 良 一	〃 高槻市消防団	副分団長	佐 藤 武 彦 一
〃 泉南市消防団	副団長	殿 谷 忠 一	〃 茨木市消防団	副分団長	吉 田 泰 一 人 一
〃 豊中市消防団	副団長	西 上 克 己 一	〃 和泉市消防団	部長	朽 木 將 一
〃 寝屋川市消防団	副団長	吉 川 昭 一 博 一	〃 寝屋川市消防団	班長	北 西 友 三 一 茂 一
〃 池田市消防団	分団長	秋 元 公 博 一	〃 箕面市消防団	団員	桶 治 一
〃 豊中市消防団	分団長	荒 木 宏 昌 一	〃 枚方市消防団	団員	北 村 和 彦 一
〃 阪南市消防団	分団長	石 橋 正 光 一	〃 寝屋川市消防団	団員	北 村 光 一 廉 一
〃 池田市消防団	分団長	井 井 義 次 一	〃 豊能町消防団	団員	湯 野 芳 樹 一
〃 岬町消防団	分団長	入 江 三 男 一	兵庫県 神戸市北消防団	団長	成 家 庄 三 一 雄 一
〃 大阪狭山市消防団	分団長	尾 崎 豊 春 一	〃 姫路市家島町消防団	団長	上 田 辰 一 彦 一
〃 忠岡町消防団	分団長	橋 本 正 義 一	〃 神戸市須磨消防団	団長	高 木 俊 一 貴 一
〃 松原市消防団	分団長	橋 本 世 義 一	〃 宍粟市消防団	団長	高 橋 玄 一 幸 一
〃 泉南市消防団	分団長	辻 野 良 夫 一	〃 神戸市西消防団	団長	山 崎 幸 一

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名
兵庫県	香美町消防団	副団長	東 俊一	兵庫県	新温泉町消防団	分団長	池田 秀好
〃	香美町消防団	副団長	磯 由啓	〃	高砂市消防団	分団長	伊藤 定雄
〃	篠山市消防団	副団長	尾 垣春夫	〃	西宮市消防団	分団長	野田 勝修
〃	宍粟市消防団	副団長	部 秀明	〃	養父市消防団	分団長	内 崎清一
〃	淡路市消防団	副団長	岡 井孝一	〃	加古川市消防団	分団長	岡 堅雄
〃	豊岡市出石消防団	副団長	加 藤孝一	〃	伊丹市消防団	分団長	居 利光
〃	豊岡市豊岡消防団	副団長	河 口清一	〃	加東市消防団	分団長	岸 光雄
〃	豊岡市竹野消防団	副団長	河 下 肇	〃	西宮市消防団	分団長	岸 光雄
〃	姫路市香寺町消防団	副団長	清 雅之文	〃	神戸市兵庫消防団	分団長	上月 介平
〃	宝塚市消防団	副団長	清 藏直	〃	尼崎市消防団	分団長	上 佐純
〃	神戸市西消防団	副団長	白 伯尚	〃	尼崎市消防団	分団長	清 水 修
〃	神戸市灘消防団	副団長	白 井幸治	〃	相生市消防団	分団長	清 水 伸幸
〃	淡路市消防団	副団長	白 井哲也	〃	芦屋市消防団	分団長	谷 中 幸次
〃	たつの市消防団	副団長	曾 谷 聡	〃	新温泉町消防団	分団長	谷 中 介
〃	豊岡市城崎消防団	副団長	中 井博文	〃	相生市消防団	分団長	中 井 博
〃	洲本市消防団	副団長	中 井 章	〃	尼崎市消防団	分団長	中 井 裕彦
〃	養父市消防団	副団長	中 村 賢一	〃	赤穂市消防団	分団長	中 村 信
〃	淡路市消防団	副団長	中 山 文夫	〃	養父市消防団	分団長	中 橋 信
〃	太子町消防団	副団長	中 山 敏彦	〃	高砂市消防団	分団長	中 橋 敏彦
〃	加古川市消防団	副団長	廣 藤 清一	〃	明石市消防団	分団長	中 橋 敏彦
〃	姫路市安富町消防団	副団長	細 野 雅一	〃	赤穂市消防団	分団長	本 田 守弘
〃	姫路市夢前町消防団	副団長	本 郷 貴之	〃	猪名川町消防団	分団長	本 西 隆彦
〃	姫路市網干消防団	副団長	三 輪 敏吉	〃	川西市消防団	副分団長	向 野 清生
〃	佐用町消防団	副団長	三 輪 孝志	〃	川西市消防団	団員	向 野 清生
〃	朝来市消防団	副団長	吉 野 比呂志	〃	三木市消防団	団員	吉 野 比呂志
〃	三田市消防団	分団長	新 井 泰夫	奈良県	明日香村消防団	団長	中 島 孝一
奈良県	大淀町消防団	副団長	岡 本 康夫	和歌山県	那智勝浦町消防団	分団長	眞 岐 昌志
〃	斑鳩町消防団	副団長	田 中 常夫	〃	和歌山市消防団	分団長	眞 岐 昌志
〃	黒滝村消防団	副団長	増 泰 雅	〃	那智勝浦町消防団	分団長	月 輪 信
〃	生駒市消防団	副団長	松 本 淳	〃	有田川町消防団	分団長	林 隆
〃	橿原市消防団	副団長	丸 橋 武	〃	橋本市消防団	分団長	松 本 利彦
〃	三郷町消防団	副団長	森 田 昌宏	〃	海南市消防団	分団長	松 本 一彦
〃	奈良市消防団	副団長	森 村 正力	〃	海南市消防団	分団長	松 本 啓次
〃	安堵町消防団	分団長	井 上 美彦	〃	有田市消防団	副分団長	島 田 博
〃	十津川村消防団	分団長	岡 本 俊夫	〃	日野町消防団	副団長	後 藤 則雄
〃	御所市消防団	分団長	谷 谷 隆	〃	三朝町消防団	副団長	福 松 一彦
〃	下北山村消防団	分団長	久保利 忠	〃	南部町消防団	副団長	松 本 一彦
〃	平群町消防団	分団長	小 東 喜平	〃	八頭町消防団	副団長	松 本 伸介
〃	野迫川村消防団	分団長	地 造 昭男	〃	南部町消防団	分団長	松 本 一彦
〃	上牧町消防団	団員	竹 島 成宜	〃	鳥取市消防団	分団長	坂 本 一彦
和歌山県	日高町消防団	団長	福 井 秀	〃	大山町消防団	分団長	坂 本 一彦
〃	串本町消防団	団長	福 谷 好布	〃	米子市消防団	分団長	坂 本 一彦
〃	串本町消防団	副団長	福 田 一明	〃	米子市消防団	分団長	塚 本 一彦
〃	有田川町消防団	副団長	福 木 一明	〃	米子市消防団	分団長	塚 本 一彦
〃	和歌山市消防団	副団長	小 池 謙治	〃	鳥取市消防団	分団長	西 原 一彦
〃	みなべ町消防団	副団長	小 久 野 清	〃	米子市消防団	分団長	西 原 一彦
〃	かつらぎ町消防団	副団長	西 浦 秀男	〃	湯梨浜町消防団	分団長	三 浦 一彦
〃	那智勝浦町消防団	副団長	村 上 幸	〃	鳥取市消防団	分団長	三 浦 一彦
〃	古座川町消防団	分団長	池 田 一彦	〃	米子市消防団	分団長	三 浦 一彦
〃	新宮市消防団	分団長	蛭 子 進	〃	倉吉市消防団	分団長	三 浦 一彦
〃	橋本市消防団	分団長	尾 岡 進	〃	吉賀町消防団	分団長	三 浦 一彦
〃	有田川町消防団	分団長	尾 根 哲男	〃	出雲市消防団	副団長	石 飛 孝夫

都道府県名 所属	階級	氏名	都道府県名 所属	階級	氏名
島根県 奥出雲町消防団	副団長	石原 武志	岡山県 倉敷市消防団	副団長	武内 豊治
〃 出雲市消防団	副団長	内藤 隆雄	〃 倉敷市消防団	副団長	山田 正一
〃 益田市消防団	副団長	中野 高修	〃 高梁市消防団	副団長	西野 石介
〃 邑南町消防団	副団長	日暮 浩	〃 真庭市消防団	副団長	村田 茂
〃 大田市消防団	副団長	松浦 裕	〃 真庭市消防団	副団長	沼田 泰一郎
〃 益田市消防団	副団長	三浦 満	〃 和気町消防団	副団長	延原 一生
〃 浜田市消防団	分団長	青木 秀信	〃 勝央町消防団	副団長	山上 政祐
〃 浜田市消防団	分団長	井戸 静志	〃 備前市消防団	副団長	山形 祐康
〃 浜田市消防団	分団長	大野 義和	〃 岡山市消防団	副団長	赤井 幸規
〃 江津市消防団	分団長	小川 洋	〃 倉敷市消防団	分団長	吉澤 夫
〃 浜田市消防団	分団長	川崎 崇	〃 美咲町消防団	分団長	芦田 淳一
〃 津和野町消防団	分団長	齋藤 夫	〃 倉敷市消防団	分団長	生駒 研一
〃 飯南町消防団	分団長	澤村 武志	〃 津江市消防団	分団長	今井 雅弘
〃 美郷町消防団	分団長	中根 樹	〃 真庭市消防団	分団長	江上 暢之
〃 安来市消防団	分団長	藤井 次	〃 美作市消防団	分団長	大塚 智章
〃 江津市消防団	分団長	前田 光	〃 玉野市消防団	分団長	岡田 弘一
〃 安来市消防団	分団長	水田 和光	〃 真庭市消防団	分団長	小野 晋
〃 益田市消防団	分団長	村田 隆	〃 里庄町消防団	分団長	小川 景田
〃 浜田市消防団	分団長	柳山 昇	〃 倉敷市消防団	分団長	梶原 政彦
〃 益田市消防団	分団長	吉岡 雄	〃 赤磐市消防団	分団長	河本 守
〃 江津市消防団	分団長	石山 道明	〃 備前市消防団	分団長	河本 守
〃 松江市消防団	分団長	石山 道明	〃 岡山市消防団	分団長	河本 守
岡山県 西粟倉村消防団	団長	石山 道明	〃 岡山市消防団	分団長	河本 守
〃 岡山市消防団	副団長	石山 道明	〃 岡山市消防団	分団長	河本 守
〃 高梁市消防団	副団長	小林 三十三	〃 岡山市消防団	分団長	河本 守
〃 勝央町消防団	副団長	古山 司	〃 笠岡市消防団	分団長	河本 守
			〃 総社市消防団	分団長	河本 守

都道府県名 所属	階級	氏名	都道府県名 所属	階級	氏名
岡山県 笠岡市消防団	分団長	塩田 徹	岡山県 岡山市消防団	分団長	安富 正史
〃 玉野市消防団	分団長	杉野 和	〃 真庭市消防団	分団長	山本 章
〃 美作市消防団	分団長	前田 文	〃 真庭市消防団	分団長	山本 史
〃 倉敷市消防団	分団長	千田 裕	〃 岡山市消防団	分団長	山本 教司
〃 岡山市消防団	分団長	坪井 修	〃 美作市消防団	分団長	横林 秀利
〃 津山市消防団	分団長	土居 幸	〃 真庭市消防団	分団長	和田 樹
〃 総社市消防団	分団長	中島 稔	〃 津山市消防団	分団長	和田 文文
〃 鏡野町消防団	分団長	難波 達男	〃 倉敷市消防団	分団長	渡邊 賢治
〃 倉敷市消防団	分団長	西原 博	〃 高梁市消防団	副分団長	江川 人
〃 岡山市消防団	分団長	西原 昭男	〃 高梁市消防団	副分団長	川上 誠
〃 津山市消防団	分団長	波田 恒宏	〃 笠岡市消防団	副分団長	小寺 善浩
〃 高梁市消防団	分団長	原 吾吉	〃 美作市消防団	副分団長	豊田 芳明
〃 真庭市消防団	分団長	原 喜生	〃 倉敷市消防団	副分団長	藤原 基
〃 津山市消防団	分団長	東村 憲昌	〃 倉敷市消防団	副分団長	藤原 基
〃 赤磐市消防団	分団長	火野口 薫	〃 倉敷市消防団	副分団長	藤原 基
〃 美作市消防団	分団長	廣瀬 弘	〃 倉敷市消防団	副分団長	藤原 基
〃 美作市消防団	分団長	前田 利之	〃 瀬戸内市消防団	副分団長	前田 清春
〃 岡山市消防団	分団長	前原 久志	〃 瀬戸内市消防団	副分団長	松尾 秀明
〃 真庭市消防団	分団長	牧原 雅幸	〃 高梁市消防団	副分団長	三宅 得智
〃 笠岡市消防団	分団長	山田 三二	〃 高梁市消防団	副分団長	三宅 得智
〃 吉備中央町消防団	分団長	宮井 進	広島県 広島市消防団	団長	江定 昭
〃 倉敷市消防団	分団長	三國 夫	〃 福山市消防団	副団長	江定 昭
〃 奈義町消防団	分団長	森 浩之	〃 呉市消防団	副団長	北野 隆康
〃 早鳥町消防団	分団長	森 満	〃 安芸高田市消防団	副団長	境江 芳暢
〃 岡山市消防団	分団長	森 建	〃 広島市安佐北消防団	副団長	櫻井 眞男
〃 岡山市消防団	分団長	安井 收	〃 熊野町消防団	副団長	竹内 探
			〃 庄原市消防団	副団長	竹内 探
			〃 江田島市消防団	副団長	出張 秀輝

都道府県名	所属	階級	氏名	都道府県名	所属	階級	氏名
広島県	福山市消防団	副団長	林 隆 尚	広島県	呉市消防団	分団長	中 光 朗
◇	福山市消防団	副団長	山 由 岳	◇	廿日市市消防団	分団長	奈 良 野 次
◇	広島市佐伯消防団	副団長	廣 重 雅 美	◇	広島市南消防団	分団長	西 尾 栄 一
◇	江田島市消防団	副団長	三 山 浦 忠 志	◇	広島市安佐北消防団	分団長	西 本 一 敏
◇	呉市消防団	副団長	山 本 功 夫	◇	呉市消防団	分団長	東 野 豊 昭 男
◇	東広島市消防団	副団長	横 山 英 樹	◇	三原市消防団	分団長	福 野 豊 昭
◇	東広島市消防団	分団長	相 田 定 伸	◇	広島市南消防団	分団長	福 原 好 宏
◇	広島市西消防団	分団長	有 富 輝 明	◇	広島市安佐北消防団	分団長	藤 川 雅 人
◇	廿日市市消防団	分団長	石 田 芳 一	◇	安芸高田市消防団	分団長	藤 川 久 幸
◇	呉市消防団	分団長	大 谷 春 雄	◇	東広島市消防団	分団長	藤 川 清 浩
◇	江田島市消防団	分団長	奥 山 和 則	◇	福山市消防団	分団長	高 松 人 三
◇	江田島市消防団	分団長	小 倉 秀 則	◇	廿日市市消防団	分団長	松 野 賢 一
◇	呉市消防団	分団長	梶 川 寛 昭	◇	大竹市消防団	分団長	丸 本 吉 次
◇	三原市消防団	分団長	森 淳 亨	◇	呉市消防団	分団長	丸 本 明 治
◇	神石高原町消防団	分団長	川 上 清 高	◇	三次市消防団	分団長	宮 田 志 夫
◇	東広島市消防団	分団長	木 下 秀 喜	◇	呉市消防団	分団長	向 山 親 博
◇	三次市消防団	分団長	國 政 裕 次 郎	◇	尾道市消防団	分団長	森 演 茂
◇	安芸太田町消防団	分団長	栗 柄 幸 生	◇	三次市消防団	分団長	城 本 三 夫
◇	広島市安佐北消防団	分団長	野 省 輝 彦	◇	三原市消防団	分団長	吉 本 幹 三
◇	坂町消防団	分団長	幸 部 和 則	◇	安芸高田市消防団	分団長	吉 湯 本 治
◇	安芸高田市消防団	分団長	幸 部 和 富 男	◇	三次市消防団	分団長	湯 本 省 雄
◇	広島市安佐北消防団	分団長	小 竹 富 男	◇	安芸太田町消防団	副分団長	大 膳 省 治
◇	三次市消防団	分団長	齊 木 一 清	◇	三原市消防団	副分団長	膳 小 井 敏 治
◇	北広島町消防団	分団長	佐 木 敏 正	◇	三原市消防団	副分団長	小 石 敏 照
◇	安芸太田町消防団	分団長	佐 木 敏 正	◇	広島市安佐北消防団	部長	小 石 敏 照
◇	東広島市消防団	分団長	新 川 義 貴	◇	広島市安佐南消防団	部長	重 道 修 二
都道府県名	所属	階級	氏名	都道府県名	所属	階級	氏名
広島県	竹原市消防団	部長	山 登 要 輔	山口県	萩市消防団	分団長	小 橋 明
◇	広島市西消防団	班長	池 本 貢 貴	◇	山陽小野田市消防団	分団長	笹 木 豊
◇	府中町消防団	班長	藤 原 莊 一	◇	萩市消防団	分団長	瀬 川 美 幸
◇	府中市消防団	団員	市 川 忠 男	◇	下松市消防団	分団長	白 石 光 之
◇	尾道市消防団	団員	酒 井 稔 彦	◇	岩国市消防団	分団長	白 田 口 憲 好
◇	尾道市消防団	団員	宮 本 勝 彦	◇	下関市消防団	分団長	白 田 口 紀 美
山口県	山口市消防団	副団長	石 丸 栄 喜	◇	防府市消防団	分団長	田 中 美 幸
◇	萩市消防団	副団長	木 村 計 司	◇	山陽小野田市消防団	分団長	内 田 基 範
◇	長門市消防団	副団長	木 村 正 雄	◇	上関町消防団	分団長	内 藤 清 秋
◇	山口市消防団	副団長	酒 井 紀 一	◇	萩市消防団	分団長	藤 岡 榮 治
◇	岩国市消防団	副団長	廣 瀬 博 文	◇	萩市消防団	分団長	平 島 正 和
◇	上関町消防団	副団長	村 上 博 史	◇	萩市消防団	分団長	平 野 隆 史
◇	宇部市消防団宇部消防団	副団長	村 上 洋 一	◇	岩国市消防団	分団長	福 田 実 安
◇	宇部市消防団宇部消防団	副団長	森 勝 彦	◇	山陽小野田市消防団	分団長	森 川 義 雄
◇	周南市消防団	副団長	山 崎 一 一	◇	光市消防団	分団長	守 田 裕 裕
◇	周南市消防団	副団長	吉 國 春 夫	◇	防府市消防団	分団長	吉 次 稔 夫
◇	萩市消防団	分団長	阿 座 上 和 徳	◇	岩国市消防団	分団長	和 木 孝 雄
◇	萩市消防団	分団長	磯 部 義 昭	◇	萩市消防団	副分団長	阿 部 高 昭
◇	山口市消防団	分団長	伊 藤 豊 博	◇	美祿市消防団	副分団長	水 原 博 博
◇	山口市消防団	分団長	伊 藤 幸 則	◇	柳井市消防団	副分団長	水 崎 孝 就
◇	岩国市消防団	分団長	岡 村 薫 豊	◇	周防大島町消防団	副分団長	杉 山 豊 一
◇	田布施町消防団	分団長	小 田 眞 勝	◇	周南市消防団	副分団長	高 木 夫 夫
◇	岩国市消防団	分団長	兼 本 正 勝	◇	岩国市消防団	団員	高 木 田 信 良
◇	美祿市消防団	分団長	北 村 典 男	◇	周防大島町消防団	団員	中 野 頼 信
◇	下関市消防団	分団長	木 村 正 信	◇	周防大島町消防団	団員	中 野 信 人
◇	山陽小野田市消防団	分団長	藏 重 正 好	徳島県	那賀町消防団	副団長	橋 本 美 義

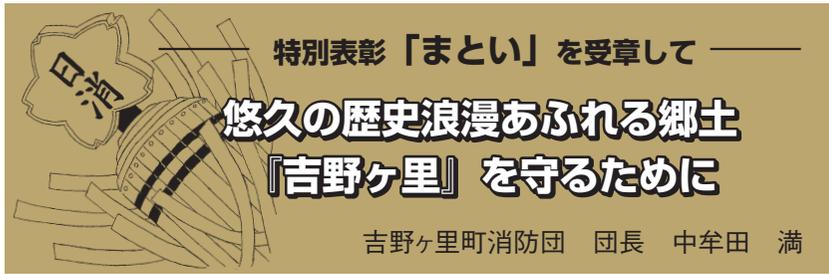
都道府県名 所属	階級	氏名	都道府県名 所属	階級	氏名
徳島県 那賀町消防団	副団長	浅信幸文	徳島県 美馬市消防団	副分団長	岡田稔之
〃 三好市池田町消防団	副団長	藤端博文	〃 板野町消防団	副分団長	津浦和之
〃 東みよし町消防団	副団長	中山秀政	〃 那賀町消防団	団員	大城日出美
〃 鳴門市消防団	副団長	西川政志	香川県 善通寺市消防団	副団長	石川光繁
〃 三好市山城町消防団	副団長	西田政志	〃 丸亀市消防団	副団長	大田元弘
〃 阿波市消防団	副団長	福井義勝	〃 さぬき市消防団	副団長	岡村義弘
〃 板野東部消防組合消防団	副団長	宮本茂則	〃 高松市消防団	副団長	川西正夫
〃 吉野川市消防団	副団長	宮本和幸	〃 さぬき市消防団	副団長	楠正秋
〃 阿南市消防団	副団長	山本英貴	〃 直島町消防団	副団長	小林恭志
〃 美馬西部消防組合消防団	副団長	和田清貴	〃 丸亀市消防団	副団長	佐々井憲治
〃 徳島市消防団	分団長	岩佐徳雄	〃 多度津町消防団	副団長	高島悟
〃 美馬西部消防組合消防団	分団長	木下三次	〃 三木町消防団	副団長	高田博
〃 神山町消防団	分団長	佐々木信綱	〃 観音寺市消防団	副団長	豊田敏計
〃 徳島市消防団	分団長	佐野光勝	〃 琴平町消防団	副団長	船野敬行
〃 牟岐町消防団	分団長	佐島政勝	〃 丸亀市消防団	副団長	福野演信
〃 阿南市消防団	分団長	炭谷善美	〃 坂出市消防団	副団長	水本貞義
〃 海陽町消防団	分団長	竹森眞助	〃 東かがわ市消防団	副団長	山上勇
〃 徳島市消防団	分団長	谷信之	〃 小豆島町消防団	副団長	綿谷範
〃 美馬市消防団	分団長	中津夫	〃 さぬき市消防団	分団長	前川義章
〃 美馬市消防団	分団長	林繁明	〃 坂出市消防団	分団長	大川俊章
〃 美馬市消防団	分団長	藤岡昇	〃 高松市消防団	分団長	北原正文
〃 三好市井川町消防団	分団長	丸元広和	〃 三豊市消防団	分団長	塩田清勝
〃 徳島市消防団	分団長	楓山重隆	〃 まんのう町消防団	分団長	高橋明光
〃 海陽町消防団	分団長	石井均	〃 三豊市消防団	分団長	岡田義寛
〃 美馬市消防団	副分団長	青木健二	〃 高松市消防団	分団長	高木歩
〃 美波町消防団	副分団長	木直喜	〃 観音寺市消防団	分団長	藤岡清

都道府県名 所属	階級	氏名	都道府県名 所属	階級	氏名
香川県 高松市消防団	分団長	宮武孝	愛媛県 西予市消防団	副団長	三好一正
〃 高松市消防団	副分団長	東原孝	〃 松野町消防団	副団長	森一英雄
〃 高松市消防団	副分団長	山花仁美	〃 松山市消防団	分団長	相原正樹
愛媛県 愛南町消防団	団長	藤野正志	〃 伊予市消防団	分団長	小笠原博志
〃 伊方町消防団	団長	瀧池信男	〃 松山市消防団	分団長	小野山仁
〃 松山市消防団	副団長	青野光男	〃 今治市消防団	分団長	片智山泉
〃 今治市消防団	副団長	赤瀬若平	〃 大洲市消防団	分団長	小西龍次
〃 西予市消防団	副団長	い家常久	〃 東温市消防団	分団長	佐々木義廣
〃 西予市消防団	副団長	福塚敏彦	〃 西条市消防団	分団長	定成則
〃 愛南町消防団	副団長	大塚武人	〃 伊予市消防団	分団長	藤津健一
〃 伊予市消防団	副団長	岡田吉弘	〃 四国中央市消防団	分団長	藤進正弘
〃 今治市消防団	副団長	越智要	〃 松山市消防団	分団長	仙波積
〃 松前町消防団	副団長	嘉村重雄	〃 今治市消防団	分団長	曾我佳文
〃 伊予市消防団	副団長	亀岡誠	〃 四国中央市消防団	分団長	曾我部俊朗
〃 伊方町消防団	副団長	菊池隼人	〃 西条市消防団	分団長	高橋直明
〃 西条市消防団	副団長	塩見典久	〃 今治市消防団	分団長	高田中勝
〃 宇和島市消防団	副団長	高田喜樹	〃 大洲市消防団	分団長	寺尾喜広
〃 四国中央市消防団	副団長	高橋藤信	〃 西条市消防団	分団長	徳増博行
〃 愛南町消防団	副団長	竹場次	〃 愛南町消防団	分団長	日野健一
〃 松山市消防団	副団長	玉井統夫	〃 西条市消防団	分団長	長野俊次郎
〃 伊予市消防団	副団長	中川謙	〃 今治市消防団	分団長	本宮環
〃 八幡浜市消防団	副団長	長田明裕	〃 四国中央市消防団	分団長	宮崎弘敏
〃 松山市消防団	副団長	藤原耕司	〃 松山市消防団	分団長	村上千廣
〃 内子町消防団	副団長	古元昌	〃 今治市消防団	分団長	柳原英夫
〃 鬼北町消防団	副団長	藤岡長久	〃 久万高原町消防団	分団長	山邊久
〃 砥部町消防団	副団長	松水久富	〃 東温市消防団	分団長	渡部賢三

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名		
愛媛県	今治市消防団	分団長	渡部 孝一	高知県	室戸市消防団	分団長	高木 草三		
	◇ 新居浜市消防団	副分団長	河山 正起		◇ 土佐市消防団	分団長	高橋 田嘉		
	◇ 四国中央市消防団	副分団長	藤原 博文		◇ 高幡消防組合榊原消防団	分団長	高橋 田夫		
	◇ 今治市消防団	副分団長	中野 美喜男		◇ 越知町消防団	分団長	高橋 正昭		
	◇ 新居浜市消防団	副分団長	中尾 圭介		◇ 高幡消防組合須崎消防団	分団長	高橋 山登		
	◇ 今治市消防団	部長	浅海 佐三郎		◇ 東洋町消防団	部長	高橋 元郎		
	◇ 今治市消防団	部長	渡邊 志津男		◇ 高幡消防組合津野消防団	団員	高橋 元安		
	◇ 新居浜市消防団	団員	合田 友一		福岡県	春日市消防団	団長	高橋 元利	
	◇ 新居浜市消防団	団員	近藤 仁志			◇ 苅田町消防団	団長	高橋 逸雄	
	◇ 四国中央市消防団	団員	山本 岩夫			◇ 宗像市消防団	副団長	高橋 順孝	
	高知県	高幡消防組合四万十消防団	副団長			市川 春樹	◇ みやま市消防団	副団長	高橋 山敏
		◇ 芸西村消防団	副団長			岩野 勇次	◇ 嘉麻市消防団	副団長	高橋 末洋
		◇ いの町消防団	副団長			岡村 芳夫	◇ 行橋市消防団	副団長	高橋 田實
		◇ 高幡消防組合中土佐消防団	副団長			岡村 一尚	◇ 太宰府市消防団	副団長	高橋 嶋元
◇ 中芸広域連合馬路村消防団		副団長	岡村 福長	◇ 福智町消防団		副団長	高橋 五十男		
◇ 佐川町消防団		副団長	山本 孝行	◇ 福岡市早良消防団		分団長	阿部 重光		
◇ 宿毛市消防団		副団長	山本 恒雄	◇ 北九州市若松消防団		分団長	阿部 牧野		
◇ 香南市夜須消防団		副団長	横田 榮介	◇ 福岡市博多消防団		分団長	阿部 水秀		
◇ 南国市消防団		副団長	堀 忠志	◇ 福岡市南消防団		分団長	阿部 大昌		
◇ 安芸市消防団		分団長	井上 玲介	◇ 福岡市博多消防団		分団長	阿部 山嘉		
◇ 四万十市消防団		分団長	大野 玲	◇ 北九州市八幡西消防団		分団長	阿部 谷正		
◇ 香美市消防団		分団長	梶原 茂英	◇ 福岡市博多消防団	分団長	阿部 繁太郎			
◇ 高知市消防団		分団長	片岡 俊次	◇ 飯塚市消防団	分団長	古賀 勇男			
◇ 仁淀川町消防団		分団長	川村 勝宏	◇ 嘉麻市消防団	分団長	佐佐木 亮			
◇ 大豊町消防団	分団長	川村 幸英	◇ 北九州市小倉北消防団	分団長	佐佐木 亮				
◇ 中芸広域連合奈半町消防団	分団長	齊藤 正二郎	◇ 大牟田市消防団	分団長	杉野 和則				
福岡県	嘉麻市消防団	分団長	西田 明	福岡県	みやこ町消防団	副分団長	白川 修		
	◇ 嘉麻市消防団	分団長	橋山 幸徳		◇ 川崎町消防団	副分団長	竹下 保壽		
	◇ 香春町消防団	分団長	橋本 治次		◇ 行橋市消防団	副分団長	竹下 次行		
	◇ 行橋市消防団	分団長	橋本 寛安		◇ 飯塚市消防団	副分団長	中野 政行		
	◇ 添田町消防団	分団長	藤川 剛二		◇ 飯塚市消防団	副分団長	中野 知男		
	◇ 北九州市八幡東消防団	分団長	藤吉 敬文		◇ 嘉麻市消防団	副分団長	田邊 文一		
	◇ 宮若市消防団	分団長	松井 信秀		◇ 築上町消防団	副分団長	江崎 清一		
	◇ 赤村消防団	分団長	松代 寛一		◇ 豊前市消防団	副分団長	中野 誠一		
	◇ 福岡市水上消防団	分団長	丸尾 淳一		◇ 川崎町消防団	副分団長	中野 正利		
	◇ 福岡市水上消防団	分団長	丸尾 新一郎		◇ 飯塚市消防団	副分団長	中野 幸雄		
	◇ みやこ町消防団	分団長	森原 繁		◇ 飯塚市消防団	副分団長	花見 元雄		
	◇ 大任町消防団	分団長	安武 行徳		◇ 桂川町消防団	副分団長	藤田 隆志		
	◇ 北九州市八幡西消防団	分団長	柳文 雄典		◇ 北九州市小倉南消防団	副分団長	前田 康典		
	◇ 宮若市消防団	分団長	山本 岩夫		◇ 福智町消防団	副分団長	丸山 義孝		
◇ 北九州市小倉南消防団	分団長	山本 正彦	◇ 北九州市若松消防団	副分団長	山本 義嗣				
◇ 福岡市西消防団	分団長	吉岡 和彦	佐賀県	唐津市浜玉消防団	団長	井上 定明			
◇ 北九州市門司消防団	分団長	吉岡 勝治		◇ 小城市消防団	副団長	池田 英嗣			
◇ 川崎町消防団	副分団長	高田 登		◇ 唐津市呼子消防団	副団長	高田 俊活			
◇ 福岡市博多消防団	副分団長	岡村 哲晴		◇ 唐津市鎮西消防団	副団長	貝川 隆広			
◇ 嘉麻市消防団	副分団長	尾田 卓夫		◇ 武雄市消防団	副団長	小池 隆			
◇ 宮若市消防団	副分団長	久保 幹夫		◇ 唐津市蔵木消防団	副団長	小池 孝晴			
◇ 桂川町消防団	副分団長	久保 康弘		◇ 佐賀市消防団	分団長	池田 文文			
◇ 北九州市八幡西消防団	副分団長	倉成 昭宏		◇ 伊万里市消防団	分団長	浦川 弘			
◇ 福智町消防団	副分団長	小崎 政志		◇ みやき町消防団	分団長	江頭 寛			
◇ 直方市消防団	副分団長	志鶴 隆俊		◇ 白石町消防団	分団長	江口 成次			
◇ 北九州市八幡西消防団	副分団長	清水 照和		◇ 佐賀市消防団	分団長	岡本 聡			

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名	
佐賀県	唐津市唐津消防団	分団長	坂本 勝行	長崎県	五島市消防団	副団長	松本 和哉	
	〃 佐賀市消防団	分団長	高橋 藤彌		〃 諫早市消防団	副団長	山口 幸一	
	〃 唐津市相知消防団	分団長	田中 茂実		〃 新上五島町消防団	副団長	吉川 孝明	
	〃 神埼市消防団	分団長	中野 康慶		〃 対馬市消防団	分団長	阿比留 孝一	
	〃 嬉野市消防団	分団長	中野 正則		〃 対馬市消防団	分団長	山本 白成	
	〃 白石町消防団	分団長	橋本 惜		〃 東彼杵町消防団	分団長	岡本 徳人	
	〃 神埼市消防団	分団長	前川 秀典		〃 松浦市消防団	分団長	岡本 敏博	
	〃 佐賀市消防団	分団長	眞崎 喜隆		〃 長崎市消防団	分団長	尾崎 正博	
	〃 鳥栖市消防団	分団長	松本 大彦		〃 大村市消防団	分団長	津島 弘昭	
	〃 佐賀市消防団	分団長	松原 秀彦		〃 対馬市消防団	分団長	小島 孝行	
	〃 佐賀市消防団	分団長	岡田 保徳		〃 時津町消防団	分団長	小島 田光	
	〃 有田町消防団	分団長	宮崎 一樹		〃 西海市消防団	分団長	高瀬 正吉	
	〃 伊万里市消防団	分団長	山口 幸夫		〃 長崎市消防団	分団長	竹口 一喜	
	〃 武雄市消防団	分団長	山崎 和之郎		〃 長崎市消防団	分団長	山口 和博	
	〃 鹿島市消防団	副分団長	今村 一郎		〃 松浦市消防団	分団長	谷本 哲男	
	〃 江北町消防団	副分団長	小林 光寿		〃 佐世保市消防団	分団長	都知木 孝明	
	〃 大町町消防団	副分団長	島谷 寛男		〃 佐世保市消防団	分団長	錦戸 弘明	
	長崎県	雲仙市消防団	団長		川上 清記	〃 長崎市消防団	分団長	西岡 秀行
〃 島原市消防団		団長	本庄 一郎	〃 長崎市消防団	分団長	長崎 敏博		
〃 長崎市消防団		副団長	磯 二太郎	〃 対馬市消防団	分団長	藤川 一徳		
〃 南島原市消防団		副団長	大平 國泰	〃 平戸市消防団	分団長	松田 耕祐		
〃 佐世保市消防団		副団長	川上 昭司	〃 長崎市消防団	分団長	松永 初彦		
〃 五島市消防団		副団長	川上 重剛	〃 長崎市消防団	分団長	松村 栄一		
〃 小値賀町消防団		副団長	大黒 清利	〃 佐々町消防団	分団長	松本 幸一		
〃 志岐市消防団		副団長	立石 孝二	〃 平戸市消防団	分団長	森 藤雄		
〃 五島市消防団		副団長	野 勇司	〃 佐世保市消防団	分団長	森 清志		
長崎県		新上五島町消防団	部長	中村 芳夫	熊本県	阿蘇市消防団	副団長	室 恒和
	〃 西海市消防団	部長	馬場 利夫	〃 熊本市消防団		分団長	岩川 和喜	
	〃 川棚町消防団	団員	手塚 謙弘	〃 八代市消防団		分団長	上田 美知雄	
	〃 新上五島町消防団	団員	富永 重利	〃 天草市消防団		分団長	権村 博和	
	〃 新上五島町消防団	団員	平尾 好春	〃 熊本市消防団		分団長	岡村 善行	
	〃 平戸市消防団	団員	平松 輝男	〃 相良村消防団		分団長	宇野 勝年	
	熊本県	御船町消防団	団長	石 浩秋		〃 熊本市消防団	分団長	小山 亮彦
		〃 南阿蘇村消防団	団長	衛 藤志		〃 八代市消防団	分団長	和原 勝喜
		〃 長洲町消防団	団長	小川 俊彦		〃 熊本市消防団	分団長	河野 通照
		〃 南関町消防団	団長	末竹 信雄		〃 山鹿市消防団	分団長	藤部 賢光
		〃 大津町消防団	団長	西田 健		〃 熊本市消防団	分団長	後藤 文雄
		〃 天草市消防団	団長	春木 重昭		〃 人吉市消防団	分団長	下原 指義
		〃 相良村消防団	副団長	岡本 伊智郎		〃 八代市消防団	分団長	杉本 幸一
		〃 天草市消防団	副団長	木下 豊剛		〃 山鹿市消防団	分団長	田中 正高
		〃 小国町消防団	副団長	小 陸 幸文		〃 山鹿市消防団	分団長	園 基雄
		〃 玉東町消防団	副団長	坂本 和也		〃 熊本市消防団	分団長	寺本 隆博
		〃 天草市消防団	副団長	山下 敬二		〃 熊本市消防団	分団長	水本 井久
		〃 宇城市消防団	副団長	庄 村 伸一		〃 水川町消防団	分団長	水松 大治
〃 長洲町消防団		副団長	杉浦 健一	〃 天草市消防団	分団長	濱崎 安治		
〃 相良村消防団		副団長	山崎 時雄	〃 熊本市消防団	分団長	松村 基義		
〃 湯前町消防団		副団長	土屋 登志久	〃 熊本市消防団	分団長	松本 峰生		
〃 八代市消防団		副団長	富岡 弥	〃 津奈木町消防団	分団長	丸山 久雄		
〃 小国町消防団		副団長	内藤 利幸	〃 天草市消防団	分団長	三宅 和重		
〃 宇城市消防団		副団長	西浦 博文	〃 熊本市消防団	分団長	吉野 博文		
〃 苓北町消防団	副団長	御 和人	〃 あさぎり町消防団	団員	芳江 義美			
〃 八代市消防団	副団長	宮本 孝治	〃 大分県	津久見市消防団	団長	神 田 敏和		

都道府県名	所属	階級	氏名	都道府県名	所属	階級	氏名
大分県	杵築市消防団	副団長	阿部 信秀	大分県	臼杵市連合消防団臼杵消防団	副分団長	森田 武生
◇	竹田市消防団	副団長	井上 吉也	◇	別府市消防団	部長	藤崎 隆
◇	日出町消防団	副団長	藤井 清隆	◇	中津市消防団	班長	清水 大四郎
◇	日田市消防団	副団長	川津 靖幸	◇	中津市消防団	班長	園田 芳紀
◇	日田市消防団	副団長	江田 近	◇	中津市消防団	団員	荒巻 昭
◇	宇佐市消防団	副団長	佐藤 浩一	◇	豊後大野市消防団	団員	安藤 保
◇	豊後高田市消防団	副団長	藤川 岩男	◇	中津市消防団	団員	安江 秀美
◇	玖珠町消防団	副団長	水嶋 恭一	◇	臼杵市連合消防団臼杵消防団	団員	新名 意
◇	宇佐市消防団	副団長	水田 日出	◇	佐伯市本匠消防団	団員	新野 功
◇	佐伯市佐伯消防団	副団長	平山 新	◇	佐伯市鶴見消防団	団員	演野 和
◇	豊後大野市消防団	副団長	山村 利貞	◇	佐伯市弥生消防団	団員	御手洗 祝次郎
◇	別府市消防団	分団長	大野 武人	宮崎県	五ヶ瀬町消防団	副団長	大野 樹
◇	別府市消防団	分団長	小川 健	◇	宮崎市消防団	副団長	高橋 昌久
◇	九重町消防団	分団長	小藤 龍也	◇	西米良村消防団	副団長	高橋 夫
◇	日田市消防団	分団長	藤原 豊三郎	◇	宮崎市消防団	副団長	長友 秀樹
◇	津久見市消防団	分団長	川野 貞一	◇	延岡市消防団	副団長	矢野 津
◇	日田市消防団	分団長	熊谷 健一	◇	都城市消防団	分団長	内田 勝
◇	中津市消防団	分団長	桑原 茂樹	◇	宮崎市消防団	分団長	川島 美樹
◇	杵築市消防団	分団長	三河 野稔	◇	延岡市消防団	分団長	川島 正弘
◇	別府市消防団	分団長	齊藤 孝一	◇	小林市消防団	分団長	木倉 弘
◇	宇佐市消防団	分団長	佐藤 浩一	◇	高千穂町消防団	分団長	工藤 勇
◇	大分市消防団	分団長	嶋田 隆徳	◇	日之影町消防団	分団長	工藤 俊夫
◇	日田市消防団	分団長	嶋田 豊喜	◇	串間市消防団	分団長	久保 俊
◇	大分市消防団	分団長	藤田 敬	◇	延岡市消防団	分団長	藤田 延孝
◇	佐伯市佐伯消防団	分団長	山下 孝充	◇	高千穂町消防団	分団長	佐藤 勇
◇	日田市消防団	分団長	横尾 隆弘	◇	美郷町消防団	分団長	中川 嗣
宮崎県	日南市消防団	分団長	松浦 弘一	鹿児島県	鹿児島市消防団	分団長	福田 雄
◇	小林市消防団	分団長	松田 繁利	◇	大崎町消防団	分団長	福留 俊
◇	日向市消防団	分団長	和田 和夫	◇	宇検村消防団	分団長	松井 辰夫
◇	日南市消防団	副分団長	谷口 行利	◇	鹿児島市消防団	分団長	丸田 政徳
◇	日南市消防団	副分団長	谷本 勝彦	◇	錦江町消防団	副分団長	藤原 勉
◇	西都市消防団	部長	中井 重弘	◇	いちき串木野市消防団	副分団長	塚屋 重満
◇	都城市消防団	部長	花盛 祐一	◇	鹿屋市消防団	副分団長	新牛込 勇
◇	高原町消防団	班長	瀬戸山 文男	◇	鹿児島市消防団	副分団長	谷川 満
◇	高鍋町消防団	団員	正崎 利彦	◇	東串良町消防団	副分団長	福重 勇
◇	西都市消防団	団員	中武 義治	◇	鹿児島市消防団	副分団長	福留 幸
鹿児島県	さつま町消防団	団長	中末 吉義	◇	鹿児島市消防団	副分団長	宮原 安己
◇	鹿屋市消防団	副団長	荒瀬 純昭	◇	垂水市消防団	副分団長	宮原 己
◇	始良市消防団	副団長	川原 正三	◇	日置市消防団	副分団長	山口 幸
◇	薩摩川内市消防団	副団長	小原 高男	◇	鹿児島市消防団	部長	米倉 雄
◇	龍郷町消防団	副団長	小笠原 鎮四郎	◇	霧島市消防団	班長	井手 越行
◇	阿久根市消防団	副団長	中村 主税	◇	鹿児島市消防団	班長	打越 三
◇	西之表市消防団	副団長	古田 嗣	◇	鹿児島市消防団	班長	前田 秋廣
◇	長島町消防団	副団長	垣口 孝治	◇	鹿児島市消防団	班長	松木 和
◇	南九州市消防団	副団長	垣井 敬照	◇	肝付町消防団	団員	今井 光雄
◇	伊佐市消防団	分団長	井上 修一	◇	霧島市消防団	団員	田中 勇
◇	肝付町消防団	分団長	井上 幸雄	沖縄県	沖縄市消防団	団員	仲里 博
◇	日置市消防団	分団長	奥 誠				
◇	鹿児島市消防団	分団長	北 富良				
◇	鹿児島市消防団	分団長	栗元 昭博				
◇	鹿児島市消防団	分団長	栗平 良博				
◇	錦江町消防団	分団長	中野 徳義				



## はじめに

平成24年2月23日、日本消防会館（ニッショーホール）で盛大に挙行されました「第64回日本消防協会定例表彰式」において、消防団として最高の名誉である特別表彰「まとい」を授与いただきました。

全国2,300有余の消防団の中からこの荣誉ある表彰を当町消防団が受章できたことは、われわれ消防団員はもとより先輩諸兄の方々、吉野ヶ里町民、そして当町消防団にかかわる消防防災関係者にとりましてこの上ない喜びであり、誇りとするところであります。

これもひとえに、旧三田川町消防団、旧東脊振村消防団並びに現在の吉野ヶ里町消防団発足以来、昼夜をとわず奮闘された諸先輩の方々の消防活動の成果であり、また、関係する皆様方の格別のご理解とご協力の賜であると存じます。

永年にわたる弛まぬご尽力により、消防



出初式にて～毎年恒例の馬簾回しの風景～

団の歴史と伝統を築き上げてこられた多くの皆様に対しまして、深く敬意を表するとともに感謝申し上げる次第であります。

## 吉野ヶ里町の紹介

吉野ヶ里町は、平成18年3月1日に三田川町と東脊振村が合併して誕生しました。本町は、佐賀県の東部に位置し、総面積は、43.94km<sup>2</sup>、世帯数5,846世帯、人口16,224人（平成24年3月）となっています。

また、北部は緑輝く森林に包まれた脊振山地からなる山間地と、南部は肥沃な平野からなる田園地帯が広がる自然豊かな町です。北部の山間部中腹には、8世紀初頭の和銅年間に元明天皇の勅を受け開山し、臨濟宗の開祖である栄西禪師が中国より持ち帰った茶樹を植えたと言えられる靈仙寺跡（日本茶樹栽培発祥の地）や、中央部には邪馬台国を彷彿させる推定2.5キロメートルの濠に囲まれた日本最大級の環濠集落跡『吉野ヶ里遺跡』があり、歴史浪漫のあふ



古川 康佐賀県知事への受賞報告会にて

れる町で多くの観光客が訪れています。

本町は、『水・緑・そして人が輝く歴史のまち』をスローガンに、人と歴史と自然を未来へつなぐまちとして『住みたいまち』『住んでよかったまち』を目指し、様々な施策に取り組み、更なる発展を図っています。

### 吉野ヶ里町消防団の紹介

当町消防団は、平成18年3月1日に三田川町消防団と東脊振消防団が合併し発足しました。

現在、9分団23部制で構成し、団員数は445名、消防車両は消防ポンプ自動車7台、軽可搬ポンプ積載車等17台を有する陣容となっており、団員は、住民の生命、財産を災害から守るという消防精神のもと日夜訓練に励んでおり、毎月一日には本部分団女性部による防火啓発活動を行うなど、地道ながらも地域に根差した活動を目指しています。

また、平成22年度に整備された防災行政無線を活用して、防災啓発や災害発生に迅速に対応しており、非常に統制のとれた組織力のある消防団であると自負しています。

### 消防団の活動

消防団の教養教育活動として、初任団員・新任班長教育訓練並びに分団長以上研修（県消防協会支部主催）へも積極的に参加し、高度な知識と技能習得また人材育成に努めています。

さらに、春と秋の防火週間に合わせて、消防団員としての基本である消防操法訓練を地域住民とともに分団毎に実施、9月には夏季訓練、また、毎年11月には隣接市町と合同による山林火災を想定した中継送水訓練を行い、大規模災害時に市町を超えた広域的な応援体制の確立を図っています。

また、昨年おきました東日本大震災を教訓として、大規模災害に対する危機意識の高揚とこれらを含めた対策について、地域において消防団員が中心となって日頃から自治会等の訓練指導にあたっているところです。

加えて、より地域に根差した活動の振興を図るべく女性の入団を積極的に推進しており、身近で細かい気配りのできる活動を目指したいと考えています。

### 終わりに

今日では、未曾有の大災害となった東日本大震災に端を発して、地域に根差した活動を行っている消防団に対する住民の期待が高まりを見せております。その中で、団員の高齢化が進んでおり、今後の若い団員の確保が大きな課題となっています。

これから先も町民の期待に応えるべく、人材育成に努めるとともに、この度の受章を機に、消防団活動を積極的にアピールしていきたいと考えております。

最後になりましたが、この名誉ある受章にあたり、格別のご高配を賜りました日本消防協会、佐賀県、佐賀県消防協会、消防防災関係者各位の皆様にご深く感謝申し上げますとともに、更なるご発展とご活躍をご祈念申し上げ、受章のご挨拶とさせていただきます。



出初式式典（団長訓辞）



## 「治にいて乱を忘れず」



新発田市消防団 団長 平野 眞市

### 1 しばたし 新発田市の紹介

新発田市は面積532.82km<sup>2</sup>、人口約10万3,000人で、越後平野の北部に位置し、県都新潟市に隣接する新潟県北部の中核都市です。

北西には白砂青松と形容される美しい海岸が広がり、南東の山岳地帯には豊かな自然景観に恵まれた磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園があります。また、かつて東洋一といわれた堤桜を有する加治川の水系によって潤う肥沃な土地が広がっており、県内有数の良質米コシヒカリの産地でもあります。

江戸時代には10万石の城下町として栄え、現在も国の重要文化財となっている新発田城や足軽長屋など城下町新発田の文化遺産をまちの随所にとどめています。そして、平成16年には城下町新発田の新しいシンボルとして、また、未来を担う子どもた

ちへの贈り物として、新発田城三階櫓・辰巳櫓が復元されました。

城下町の歴史と文化、「美人になれる温泉」として全国的にも有名な月岡温泉、山から海までの豊かな自然など、たくさんの魅力を持つ新発田市は、「住みよいまち日本一 健康田園文化都市しばた」を目指し、これからも発展していきます。

### 2 消防団の組織・現況

新発田市消防団は、本部以下6方面隊16分団88部で組織され、平成24年3月1日現在1,414名（定員1,432名）で活動しております。

消防用車両等の設備については、団本部車1台、予防広報車1台、ポンプ自動車4台、小型動力ポンプ付積載車84台を配備し、それぞれに必要な資機材を搭載して予防広報活動、防災活動や消火活動にあたっています。

### 3 消防団の活動

当市消防団は、災害を未然に防ぎ、万一災害が起きても被害等を最小限に抑える「予防消防」を最大の目標として活動を行っています。

しかし、前項でもご紹介したとおり、当市では、広い山岳地帯と日本海の砂浜、住宅が密集する市街地など、火災や地震、津



新発田市消防団ポンプ操作競技大会



新潟県消防大会ポンプ操法競技会

波や豪雨による河川の氾濫、土砂災害など多くの災害が想定され、有事における消防団の活動は多岐にわたります。

このため、大規模火災を想定した全団員参加の消防訓練や地域毎に想定される災害に対応した訓練、市主催の総合防災訓練など、「治にいて乱を忘れず」（万が一に備えて準備を怠らないこと）を意識し、より実践的な訓練を継続して行っています。

また、多種多様な災害活動を安全、迅速かつ的確に遂行できるよう、消防ポンプの知識と技能の修得を目的に、中継放水や分岐放水による機関講習を行い、団員一人ひとりの資質向上にも努めています。

なお、昨年は、新潟県消防大会ポンプ車操法の部に於いて、当市代表が優勝を果たしました。今年は、全国大会出場を目指し、春先から熱のこもった練習を行っています。

このほか、出初式など年中行事も利用し、消防団活動を市民の皆様幅広く知っていただくことで、「予防消防」に繋がるよう取り組んでいます。

#### 4 女性消防隊・ラッパ隊の活動

女性消防隊は、隊長以下計13名の女性消防隊員で構成され、主に予防広報活動を行っているほか、消火活動等における後方

支援要員として活動しています。

ラッパ隊は、隊長以下男女計15名の隊員で構成され、訓練等において行進曲を演奏し、団員の士気向上に一役買っているほか、女性消防隊と同様に消火活動等における後方支援要員として活動しています。

また、両隊の隊員は応急手当普及員の資格を取得し、訓練等の際には新入団員等への実技指導を行うなど、消防団員が有事の際に人命救助の片翼を担えるよう訓練や指導等に取り組んでいます。

#### 5 終わりに

近年、東日本大震災をはじめとした大規模な地震や予想しがたい局地的な集中豪雨による洪水や土砂災害などが頻発しており、全国各地で大きな被害をもたらしております。

当市消防団は、崇高な郷土愛護の精神と強い責任感を忘れず、市民の生命と財産を守るため、自治会、自主防災組織、行政と一体となって、市が掲げる「地域で支え合う災害に強いまちづくり」を推進するとともに、「災害を未然に防ぐ」ため引き続き消防団活動に取り組んでまいりたいと思います。



応急手当訓練



## シンフォニー（奈良県） 「行動できる消防団員で ありたい」

大和高田市女性消防団 副分団長  
柘田 あきみ

私たちの住む大和高田市は、奈良県の北西、奈良盆地の南西に位置し、面積16.49km<sup>2</sup>の狭隘な市域ながら、7万1千人の人口を擁し、北部の馬見丘陵の一部を除き全市域がほぼ平坦であり逆三角形の市域を、大和川の支流、高田川、葛城川の二河川が南北に貫流し、これらの自然堤防の微高地に市街地が形成されています。私たちの属する女性消防団は、平成9年9月1日に結団され、愛称「コスモス」

として、女性のもつソフト面を生かし、一般家庭の防火診断や火災予防の広報、防災訓練において救命救急指導等を中心に活動しています。

「東日本大震災への募金おねがいしまあ〜す!」「よろしくおねがいしまあ〜す。」大和高田市を南北に流れる高田川は奈良県でも有名な桜の名所です。このお花見で賑わう桜の下で、街頭募金活動を行いました。押し寄せてくる津波や被災地の未曾有の事態の中、地元消防団の多勢の方々も犠牲にられました。

私たち同じ消防団員として、東北の地でご苦労されている人たちに、今私たちは何ができるのだろうか？



桜まつりで義援金活動

とりあえず…とりあえず…募金活動を試みよう！老若男女を問わず募金して下さい。もみじのような小さな手で硬貨を握り締めて駆け寄ってくる子。年金暮らしだから少なくてごめんなさいね、と恐縮しながら老婦人。ポケットからくしゃくしゃのお札を照れながら入れてくれるこわもてのお兄さん。テレビで見た服（着用している消防団の活動服）と同じだから信頼して募金できる、頑張っとな！と声を掛けて下さる方。改めて市民の方々の関心の高さに驚きました。

災害等が起こった場合、今私たちは何ができるのか？を考え行動できる消防団でありたいと思います。



消防フェスタH23

「あっ！せんとくんだ！！」そう、奈良で、いやいや今や全国区で有名なせんとくん。どこへ行っても人気者！今日は大和高田市の消防フェスタへやって来てくれました。

『消防フェスタは毎年恒例だそうです、僕は初めて。女性消防団が、あちこちのブースで活躍しています。笑顔が皆すてきですね。最高の笑顔でのおもてなし！！子供の目線に合わせてお話している、いいね。いいね。』

「せんとく～ん、一緒に写真撮って～」「年賀状に使おうかな～」「いいよ。いいよ。はい、ポーズ」

『僕も女性消防団に負けないくらいの笑顔で…ね。来年も来ることが出来たらいいな。その時は、また一緒に笑顔で、頑張ろうね。』

きっと、せんとくんはそう言ってくれてるような気がします。

重要文化財が多数存在する奈良県では、文化財防火週間に伴う防災訓練を行っています。主に男性団員はポンプ車による放水訓練を、女性団員は消火器などの使い方や説明を行っています。

年々訓練を通して感じている事ですが、住民の皆様の協力的で熱心に取り組む姿勢には感心させられます。私達女性消防団はそんな住民の皆様の手本となるよう、応急手当普及員養成講習会や消防団特別教育1日入校などの勉強会や研修会に積極的に参加し、日々成長出来るよう努力していきたいと思えます。



文化財訓練

# 住宅用火災警報器の設置徹底 及び適切な維持管理の周知について

総務省 消防庁 予防課

## 平成23年6月以降の取組方針

平成16年の消防法改正により、既存住宅を含めた全ての住宅を対象として住宅用火災警報器の設置が義務付けられ、各市町村の条例に基づき、平成23年6月までに全ての市町村において施行されました。

しかしながら、平成23年6月時点の推計では、住宅用火災警報器を未だに設置していない世帯は約3割にのぼり、地域によっては住宅用火災警報器の設置率が約50%にとどまっているのが現状です。

住宅用火災警報器の設置は、住宅防火対策の「切り札」と言え、国民の安全・安心を確保する上で極めて重要であり、実際に、我が国における住宅火災における死者数は、新築住宅に対する住宅用火災警報器の設置義務化がスタートした平成18年以降減少を続けているなど一定の効果が現れています。

平成23年9月に開催された「住宅用火災警報器設置対策会議」（前：住宅用火災警報器設置推進会議）において「住宅用火災警報器設置対策基本方針」が新たに決定され、未設置世帯に対する働きかけ及び維持管理に関する広報の強化等、今後の取組方針が示されたところです。ここでは、各地域で実施されている当基本方針に基づく取組について、いくつかの事例を紹介します。

## 地域における取組事例

### (1) ケーブルテレビを利用した広報（石川県）

羽咋都市広域圏事務組合消防本部では、住宅用火災警報器を設置していた家庭での奏効事例をケーブルテレビの番組で紹介し、設置の徹底を呼びかけた。



住警器マンによる火災予防と住宅用火災警報器設置の呼びかけ

### (2) 住宅用火災警報器設置済シールの交付（埼玉県・鳥取県）

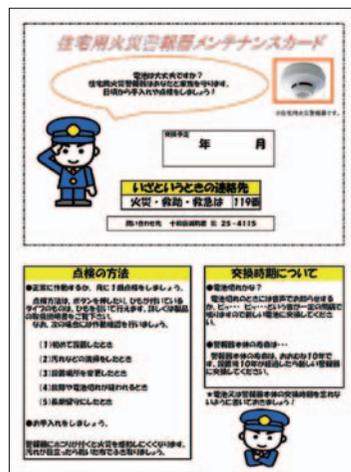
上尾市消防本部及び鳥取県東部広域行政管理組合消防局では、設置の徹底及び悪質訪問販売の抑止等を目的に住宅用火災警報器設置済シールを作成した。訪問による防火指導時等に設置済世帯へシールを交付するとともに、適切な維持管理の周知を図った。



住宅用火災警報器設置済シール

### (3) 消防職員及び女性消防団員による防火診断（青森県）

十和田地域広域事務組合消防本部では、住宅用火災警報器について設置徹底又は適切な維持管理の呼びかけを中心とした訪問による防火診断を実施した。住宅用火災警報器の設置済世帯へはメンテナンスカードを配布し、設置後の維持管理や交換時期をわかりやすく説明した。



適切な維持管理や交換時期を記載したメンテナンスカード

# 平成24年度 消防互助年金海外視察 参加者募集

## 「オーストラリア世界遺産をめぐる旅」

～森・海・都市の世界遺産に触れる～

(財)日本消防協会では、消防互助年金事業の一環として、消防互助年金加入者等とその家族を対象とした海外視察の参加者を募集します。

第16回となる今回の視察は、オーストラリアを巡るものとなります。視察は参加者の皆様が気軽に安心してご参加いただけるように、次の点に配慮した内容となっております。

- (1) 日本消防協会の職員および添乗員が同行いたします。
- (2) ポイントをしっかりとおさえながらも、ゆとりをもった視察行程となっております。
- (3) 宿泊はすべて、4ツ星以上のホテルをご用意いたします。
- (4) 全行程において、行き届いたお食事をご提供いたします。
- (5) 細部にまでおける良心的なサービスをご提供いたします。

### 1 月 日

平成24年11月18(日)から

11月24日(土)まで

### 2 視察先および日程

オーストラリア(5泊7日)

※詳細は日程表をご参照ください。

### 3 参加費用

お一人様 329,000円

費用には次の料金が含まれています。

- (1) 航空運賃(エコノミークラス)・空港税・燃油サーチャージ・団体旅行傷害保険等
- (2) 宿泊料・食事代等

※宿泊は原則2人1部屋となります。1人部屋を希望される場合は追加料金が必要となります。

### 4 募集人数

30名程度

※募集は、平成24年7月末日までですが、定員となり次第締め切らせていただきます。

### 5 問合わせ先

下記連絡先まで電話またはFAXにてご連絡ください。旅行業者より資料と申込書をお届けいたします。

#### 【問合わせ先】

(財)日本消防協会 年金共済部

TEL: 03-3503-3076

FAX: 03-3503-1480



オペラハウス  
[Tourism Australia]



ブルーマウンテン  
[Tourism Australia]



グリーン島  
"Courtesy of Tourism Queensland"

**オーストラリア世界遺産をめぐる旅 ～森・海・都市の世界遺産に触れる～**

日時	日付	曜日	都市	時刻	交通機関	概要
1	11月18日	日曜日	成田発	21:15	JQ-026	空路、ケアンズ経由シドニーへ 朝食：× 昼食：× 夕食：機内 宿泊：機中
2	11月19日	月曜日	ケアンズ着 ケアンズ発 シドニー着	5:55 9:30 13:25	JQ-955  専用車	着後、専用車にて、 <b>シドニー市内観光</b> ■ミセスマコーリスポイントからオペラハウス・ハーバーブリッジなどの景色をご堪能 ■オーストラリア最大のローマカトリック教会である、聖マアリー大聖堂、ハーバーブリッジのご見学 ホテル到着 ～夕食までの時間は、ご休息、市内散策・ショッピングなど自由に時間をお使い下さい～ 夕食はローカルレストランにて(オージービーフステーキをお楽しみ下さい) 朝食：機内 昼食：機内 夕食：○ 宿泊：シティーゲートセントラルホテルシドニー 又は同等クラスのホテル
3	11月20日	火曜日	シドニー ブルーマウンテン  シドニー	終日  18:00頃	専用車	ホテルレストランにて朝食 専用車にて <b>世界遺産ブルーマウンテンとルーラー散策</b> ■世界最大の傾斜を誇るシーニックワールドのトロッコ列車体験 ■床がガラス張りのロープウェイ息を呑む絶景を空中散歩 ■ブルーマウンテン近くの田舎町ルーラーを散策 夕食はローカルレストランにて(イタリアンのパスタメニューを予定) 朝食：○ 昼食：○ 夕食：○ 宿泊：シティーゲートセントラルホテルシドニー 又は同等クラスのホテル
4	11月21日	水曜日	シドニー ウーロンゴン  シドニー	8:30頃 10:30頃 12:00頃  18:00頃	専用車	ホテルレストランにて朝食 専用車にて <b>ウーロンゴン</b> へご案内(乗車時間：約2時間) <b>NSW OF STATE EMERGENCY SERVICE(自然災害時の緊急援助隊組織)訪問</b> 昼食はローカルレストランにて 風光明媚なウーロンゴンの街散策、灯台見学など NSW(ニューサウスウェールズ)州で起こっている山火事の事などを話しながら、シドニーへ (ユウカリの木の擦れによる山火事の自然発火スポットがあれば適宜立ち寄り、見学をします) 夕食はローカルレストランにて(中華料理メニューを予定) 朝食：○ 昼食：○ 夕食：○ 宿泊：シティーゲートセントラルホテルシドニー 又は同等クラスのホテル
5	11月22日	木曜日	シドニー  ケアンズ	4:30頃 6:00 8:05	JQ-952  専用車	ホテルレストランにて朝食BOXを用意いたします。 専用車にてシドニー空港へご案内 空路、ケアンズへ向け出発 到着後、専用車にて <b>世界遺産、熱帯雨林の森キュランダ村観光</b> ■スカイレールにて熱帯雨林の上空を散歩 ■レインフォレストステーションにて、水陸両用車「アーミーダッグ」体験、 ワイルドライフパークにてコアラの餌付け体験 ■キュランダマーケットにてお買い物 ■熱帯雨林のレトロな列車キュランダ高原列車体験 夕食はローカルレストランにて(シーフードレストランを予定) 朝食：○ 昼食：○ 夕食：○ 宿泊：パシフィックインターナショナルホテルケアンズ 又は同等クラスのホテル
6	11月23日	金曜日	ケアンズ	半日		ホテルレストランにて朝食 <b>世界遺産グリーン島クルーズ</b> ■ケアンズより船で約45分 世界遺産グレートバリアリーフに浮かぶグリーン島にてマリンスポーツ体験 夕食はローカルレストランにて 朝食：○ 昼食：○ 夕食：○ 宿泊：パシフィックインターナショナルホテルケアンズ 又は同等クラスのホテル
7	11月24日	土曜日	ケアンズ ケアンズ発 成田着	12:05発 18:45着	専用車 JQ-052	ホテルレストランにて朝食 専用車にて、ケアンズ空港へ 空路、成田へ 朝食：○ 昼食：機内 夕食：×

## 頑張れ! 少年消防 クラブ

No.49 北多摩西部消防少年団（東京都）

### 「命を守る着衣泳」を体験

北多摩西部消防少年団 防災安全係 熊谷 栄輝

平成23年7月17日から18日まで、北多摩西部消防少年団では神奈川県相模原市の「このまさわキャンプ場」において夏季野外活動を実施しました。

3月11日の東日本大震災後の活動であることから「自分の事は自分です 自分の身は自分で守る」を一番の目的に掲げ活動しました。

野外活動初日には、キャンプ場横の道志川で「着衣泳」を実施し、体験した団員からは「服を着たままでもこんなに浮いているんだ」「ペットボトルやボールが浮き具に役立った」「はじめての経験でとて

も勉強になった」等の声が聞かれ、有意義な体験をすることができました。

また震災の経験や、被災者の気持ちを少しでも知ることを目的に、夕食で使用する皿にラップをかけて皿を洗わなくても済む工夫をしたり、寝袋を使って就寝する等、例年とは一味違う経験を積むことができました。

大人の手をできるだけ借りずに、自分達の手で野外活動を成功させたためか、野外活動終了後の少年団員の顔は、少したくましく感じました。



ペットボトルを使った着衣泳

うちの

# 名物団員



新潟県

新潟市江南方面隊 大江山分団 副分団長

藤田 市男



新潟市消防団江南方面隊大江山分団の藤田副分団長を紹介します。

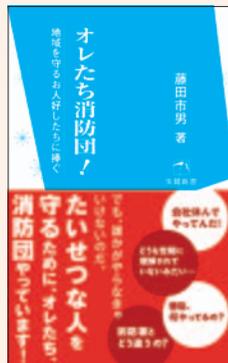
藤田副分団長は、28歳で消防団に入団し現在副分団長として活躍する中、エッセイストとしてエッセイ連載、講演活動を行い、県テコンドー会長を務め、ランニングチーム会長として100キロマラソン挑戦を目標に頑張

り、さらにはFMラジオに出演中と多才な顔を持っている方です。

平成21年には新潟市で開催された第60回新潟県消防大会において、新潟市消防団を代表して「ステキなお人好し」という題名で消防団の仕事について意見発表を行いました。

現在、消防団を題材とした「オレたち消防団！」という本が販売されています。「誰かがやらなくっちゃいけない消防団活動。その誰かがオレたちだった」という本です。書店等で見かけましたらお手に取ってみて下さい。

公私を問わず消防に尽力される姿は消防団員から大いに頼りにされるアニキ的な存在です。



大分県

宇佐市消防団 第13分団第2部 副部長

佐藤 淳



大相撲第35代横綱 双葉山生誕の地、宇佐市の名物団員は、佐藤 淳副部長です。地域の活性化を合言葉に、平成元年より全国八幡社の総本山宇佐神宮の夏越し祭りを盛り上げようと、若宮神輿かつごう会を結成しました。

会長として宇佐神宮の夏越し祭りには、先頭に立ち宇

佐神宮の境内や市街を練り歩き祭りを大いに盛り上げています。祭りと言えば佐藤副部長、佐藤副部長と言えば祭りと言われるほど名物男となっています。

また、入団歴21年の消防団員として、過去に自分の体験や経験をしたことを、若い団員たちに話を言い聞かせています。消防団活動以外にもPTAの副会長として、地域の発展や青少年の育成にも頑張っています。





## 平泉町消防団 分団長

佐々木 正

平泉町消防団分団長の佐々木さんを紹介します。

佐々木さんは、世界遺産 毛越寺に隣接している駐車場で「毛越寺門前直売 あやめ」の代表理事を務めており、消防団活動のみならず、町の農業や観光振興にも一役買っております。

「あやめ」では、地場農産物にこだわった食材を加工したパン、漬物、惣菜を販売し、観光客や町民に親しまれている施設となっています。

何事にも一本筋を通す佐々木さんは、団員や地域の方々からの人望も厚く、地域活性化の頼られるリーダーとして、ただ今幅広く活躍中です。



## 高幡消防組合中土佐消防団 班長

団員

山本 拓也 山本 カルメン

お酒大好き拓也さんと、ルーマニア出身のカルメンさんご夫婦は、結婚して12年。

「美女と野獣」とは、まさしくこのことです。

根っからの高知人の拓也さんと一緒に居るため、カルメンさんはすごい土佐弁なまりです。

拓也さんは、いつもワイワイお祭り男。しかし、消防団活動になると目の色が変わります。

その勇ましい拓也さんの姿を見てきたカルメンさんは、「私もこんな消防団員になりたい」という憧れを持ち、4年前に入団を決めました。

中土佐町は、カツオの一本釣りでも有名です。これからとても美味しい時期になります。料理人の拓也さんの捌いたカツオを食べに、中土佐町に遊びに来てください。



## 周南市消防団 団員

中村 康生

山口県の周南市は北に中国山脈、南に瀬戸内海を臨み、海岸線には大規模な工業地帯が広がっています。そんな工業地帯で育った「熱い男」中村さんを紹介します。

入団5年目を迎えた中村さんは、市内で行われる消防団消防操法競技大会にこれまで2回出場され、昨年は見事優勝されました。今年は若い団員の指導にあたり自分では果たせなかった夢、「県大会の優勝」を目指しています。また、東京で行われた消防団幹部候補中央特別研修に出席され、東日本大震災にあわれた消防団の貴重な体験談を日々の活動に生かしていきたいと「熱く」語ってくれました。

# 消防団の広場

鹿児島県

## 「地域防災の中核としての消防団を目指して」



奄美市消防団  
団長

安田 廣

かずひろ



奄美大島は鹿児島から南へおよそ380kmに位置し、全国の離島のなかでも沖縄本島、佐渡島に次ぐ3番目に大きな島です。

奄美市は島全体の約4割を占め、中核都市としての機能をもつ名瀬地区、緑豊かな森林と清流をもつ住用地区、広い農地と美しい海岸線をもつ笠利地区が平成18年3月20日に合併し誕生しました。その郷土を守る消防団員は4方面隊、16分団、452名（内女性団員28名）で構成されており「自分たちの町は自分たちで守る」という郷土愛の旺盛な者ばかりであります。

消防団活動としましては、毎年1月に挙

行する、奄美市消防団出初式に始まり、文化財防火訓練、消防操法大会、春秋火災予防運動期間での訓練、パレード、月1回の定例訓練、また地域で行われる花火大会、イベントの警備活動に積極的に参加しています。

災害出動では、火災発生時はもちろんの事、平成22年に発生した奄美豪雨災害、平成23年奄美北部豪雨災害と昼夜分かたず地域住民の生命、身体、財産を守るため、河川の氾濫、国道、県道、市町村道の至る所で冠水や崖崩れ、土砂災害の中、必死になって土嚢の積み上げ、避難誘導の活動を行いました。

今後も防災訓練や諸所の行事を通じて地域住民と共に災害に強い町づくりを進め、消防団が地域防災の中核として、地域住民から信頼されるよう団員一丸となって更なる精進に励んでいきたいと思えます。



出初式 1



出初式 2

平成24年度 全国統一防火標語

「消すまでは 出ない行かない 離れない」

## 5月の日本消防協会関係行事

5月10日(木)(午後)	正副会長会議
5月11日(金)(午後)	監事監査(日本消防協会・全日本消防人共済会)
5月15日(火)	福祉共済事業等運営委員会
5月22日(火)(午前)	日本消防協会役員会議(正副会長会議、理事会、代議員会)
5月28日(月)～29日(火)	第23回全国消防操法大会検討小委員会(常務理事、委員)

## 編集後記

本号から、「日本消防」の編集担当が、M.TからK.S(岐阜県より派遣)に変わりました。どうぞよろしくお願い致します。

着任早々、台風並みに発達した低気圧の影響により、全国で春のあらしが吹き荒れ、風速40mを越える所もあり暴風警報も発令され、各地で被害も発生しました。皆様方の地域は、大丈夫でしたか？

春と言えば、新入生、新社会人、また、人事異動の季節でもあります。

日本消防協会も異動があり、私も含め今年度から全国の消防本部・町役場から12名がお世話になることとなりました。私も東京生活をスタートし、生活環境が大きく変化しました。中でも一番大きな変化は通勤方法で、今までは通勤となると車を使う事が日常であったことが、慣れない電車に変わり、まして満員電車となるとなかなか馴染めず、朝から通勤電車と格闘している毎日です。

これから、派遣職員一同力を合わせて「日本消防協会」で頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

皆様方も季節の変わり目に、体調を崩さないよう健康にご留意ください。

これから「日本消防」を通じて、消防に関する様々な情報をお届けしたいと考えております。掲載希望の出来事やニュースが有りましたら連絡して頂きたいです。

どうぞ、一年間、よろしくお願い致します。

(K・S)

## 購読募集

購読を希望される方は、(財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,388円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十五巻第四号  
平成二十四年四月五日印刷  
平成二十四年四月十日発行

編集人 岩田知也  
発行所 財団法人日本消防協会  
東京都港区虎ノ門二丁目九番十六  
電話 〇三(3503)一四八一(代)

印刷所  
東京都文京区湯島三丁目二十一番十二  
日本印刷株式会社  
電話 3833(六九七一)代

# 消防人の火災共済の補償が増額されました 「1000倍補償を1500倍補償にUP」

## B型火災共済 (加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で  
火災共済金 100万円を150万円に増額しました。  
風水雪害等共済金(全損で) 20万円を30万円に増額しました。  
『掛金は、500円～2,500円(500円単位)で加入できます。』

## C型火災共済 『加入口数は、最高200口』

火災共済金 2,000万円を3,000万円に増額しました。  
風水雪害等共済金(全損で) 400万円を600万円に増額しました。  
※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです  
※ 加入にあたり、組合員となっていたいただくために出資金が必要になります。



### 生活協同組合 全日本消防人共済会

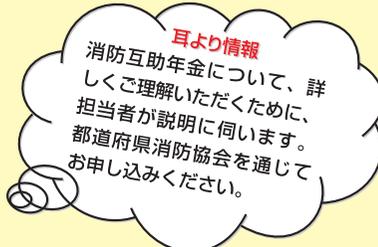
事務局 (財)日本消防協会内 支部 都道府県消防協会内

## 消防互助年金

### 『消防の仲間が支える互助年金』

消防互助年金制度は、(財)日本消防協会が消防職団員等の安定した老後の生活と福祉の向上のために第一生命保険相互会社と締結している拠出型企業年金制度です

ホームページでも詳しく紹介しています



加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 各市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

●(財)日本消防協会 年金共済部  
●生活協同組合全日本消防人共済会  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16  
日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5  
<http://www.nissho.or.jp>

